

北海道横断自動車道 根室線(尾幌^{おほろ}～糸魚沢^{いと いざわ})

第1回 説明資料

平成29年8月25日

国土交通省 北海道開発局

目 次

1. 計画段階評価の検討の流れ
2. 地域の概況
3. 地域の状況と課題
4. 道路の状況と課題
5. 課題の整理
6. 意見聴取方法

1. 計画段階評価の検討の流れ

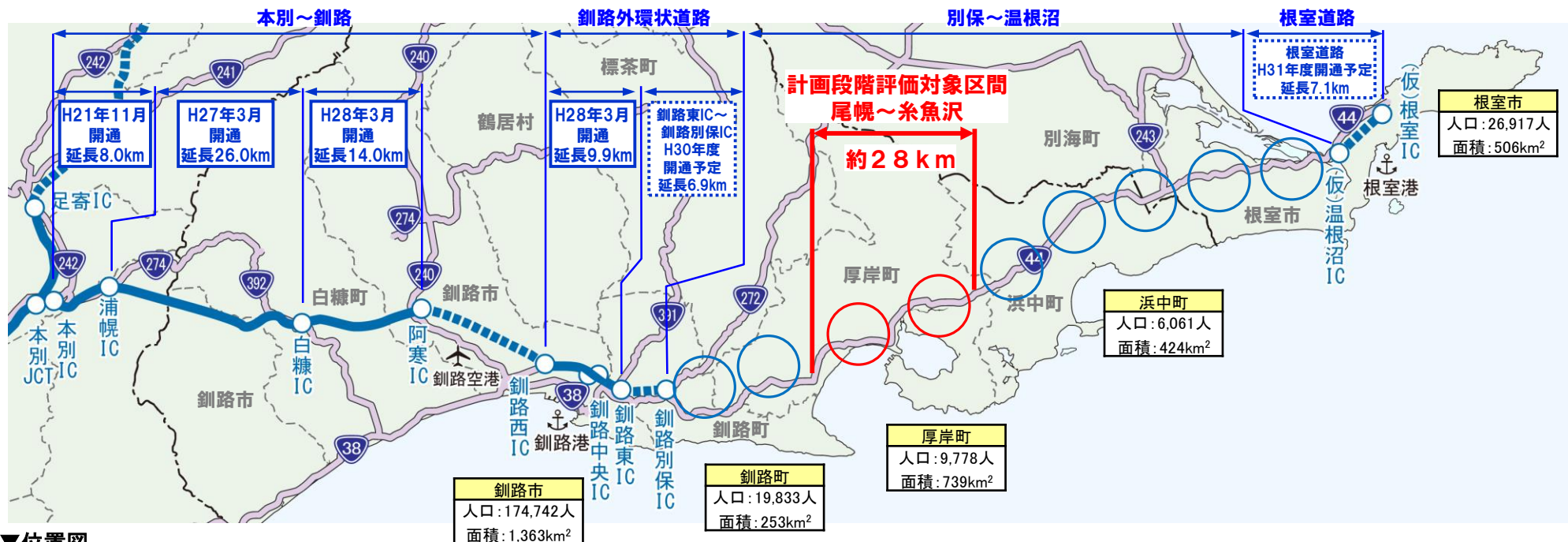
1-1) 北海道の高規格幹線道路網

- 北海道横断自動車道(根室線)は、黒松内町を起点として札幌市、帯広市、釧路市等を経由し、根室市へ至る延長約538kmの高規格幹線道路で、尾幌～糸魚沢間はその一部区間。
- 当該区間は、釧路市～根室市間のうち、厚岸町に位置する延長約28kmの区間。

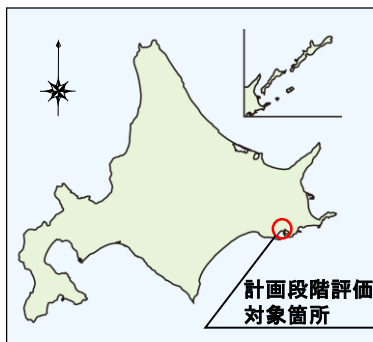


1-2) 北海道横断自動車道(根室線)の進捗

- 北海道横断自動車道(根室線)は、平成28年3月に白糠IC～阿寒IC間が開通済み。
○釧路外環状道路は、平成28年3月に釧路西IC～釧路東IC間が開通し、釧路東IC～釧路別保IC間は平成30年度に開通予定。



▼位置図



資料 人口：平成27年国勢調査（総務省）
面積：平成28年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）

凡 例	
開 通 区 間	
事業中区分間	
調査中区分間	

1-3) 計画段階評価手続きの進め方

○地域住民や道路利用者の意見を聴きながら、道路計画〔概略ルート、構造等〕について検討を行う。

今回

北海道
地方小委員会

- 【審議内容】
- 計画段階評価
手続きの進め方
 - 地域・道路の
現状と課題
 - 意見聴取方法

意見聴取

- 地域・道路の課題
- ◆意見聴取方法(案)
〈ヒアリング〉
- 対象者
- ・沿線自治体等
 - ・関係団体
 - ・観光客
- 〈アンケート〉
- 対象者
- ・地域住民
 - ・道路利用者

北海道地方小委員会

■政策目標の設定等

■評価項目の設定等

■比較ルート案(複数案)等

■対応方針(案)
(概略ルート、構造等)等

意見聴取

対応方針の決定(概略ルート・構造等)

北海道地方小委員会

※各段階で随時自治体と調整

2. 地域の概況

2-1) 地域の概況(土地利用)

- 釧路根室地域は、太平洋、オホーツク海に面し、北方領土に隣接する地域。
- また、多くの国立公園や道立自然公園を有する自然豊かな地域。
- 釧路市～根室市間の国道44号沿線は農用地が分布し、比較的高低差が少なく、平地が続く地形。



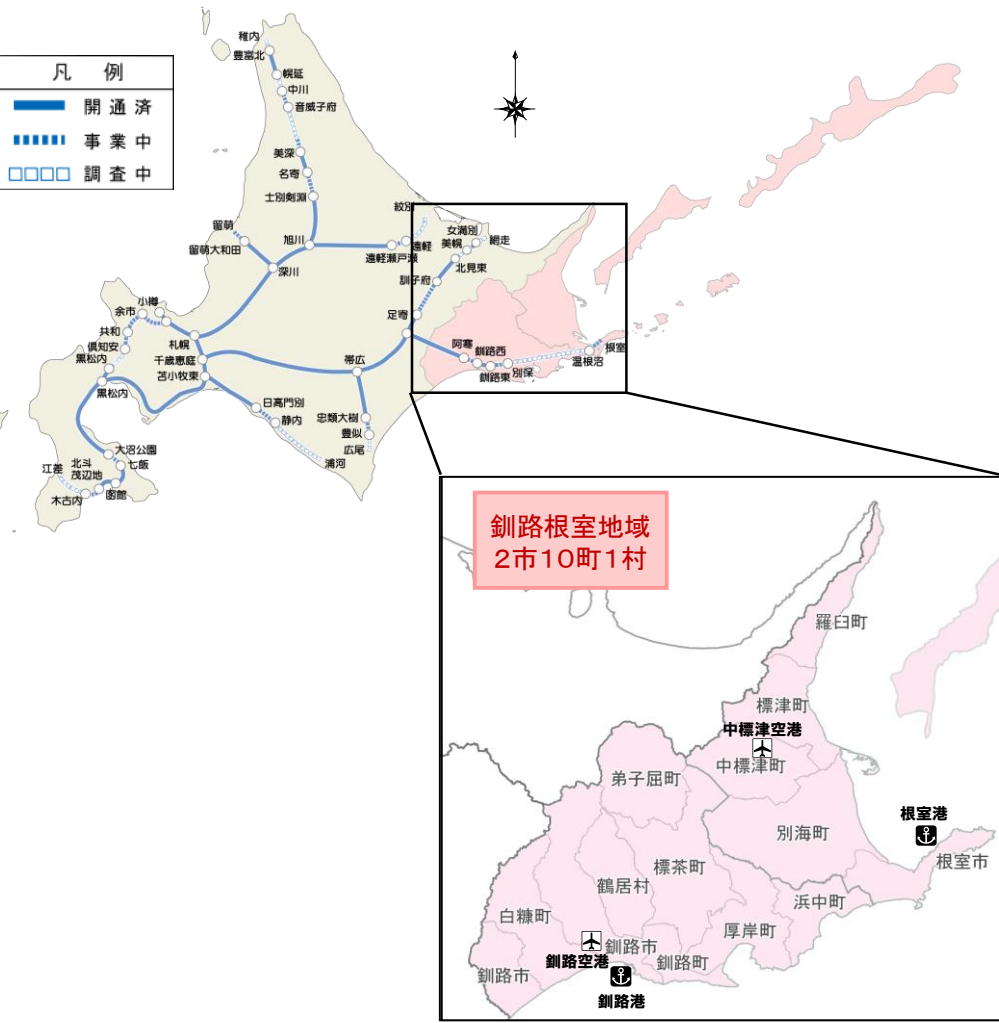
注:「農用地」は湿田・乾田・沼田・蓮田及び田、麦・陸稲・野菜・草地・芝地・りんご、梨・桃・ブドウ・茶・桐・はぜ・こうぞ・しゅろ等を栽培する土地
資料:「農用地」は「国土交通省国土政策局の国土数値情報
(土地利用細分メッシュデータH26年度)」をもとに釧路開発建設部が編集・加工
<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-L03-b.html>

2-2) 地域の概況(面積)

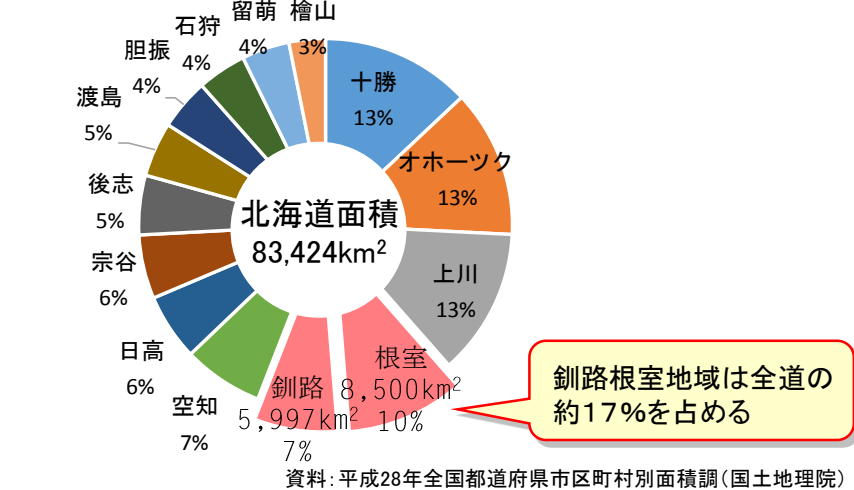
○釧路根室地域は北海道の東部に位置し、2市10町1村で構成され、重要港湾である釧路港と根室港、国管理空港である釧路空港、地方管理空港である中標津空港を有する。

○総面積は全道の約17%(14,497 km²)を占め、都府県平均の約2.3倍。

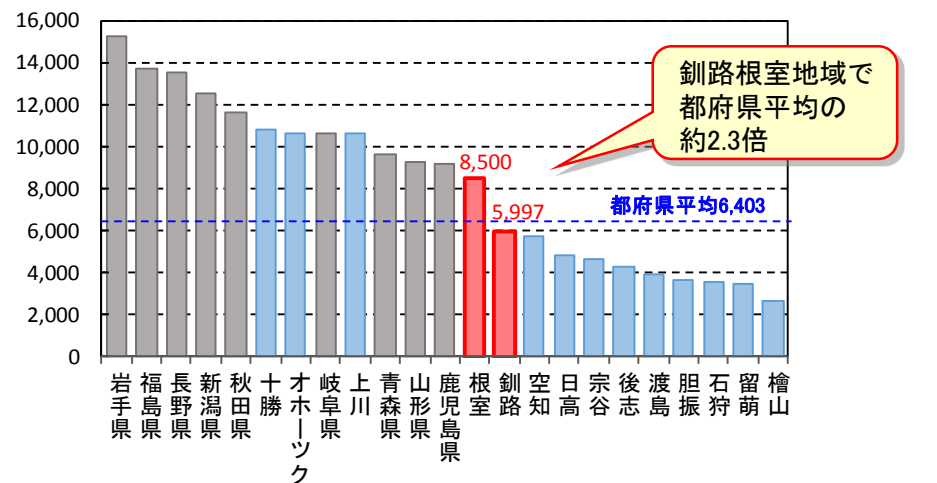
▼高規格幹線道路網図と釧路根室地域の市町村図



▼振興局別面積割合



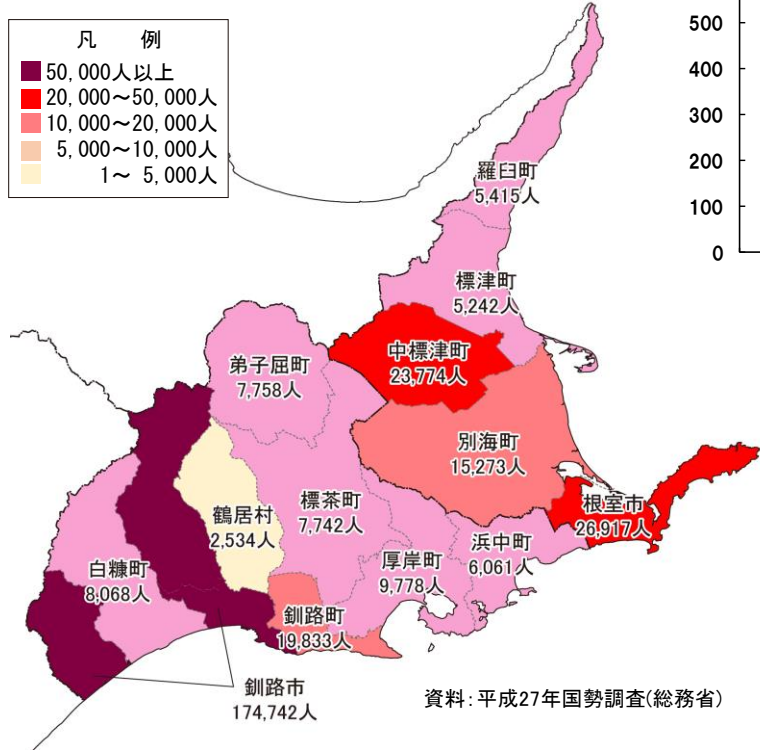
(km²) ▼面積上位県および道内振興局別面積との比較



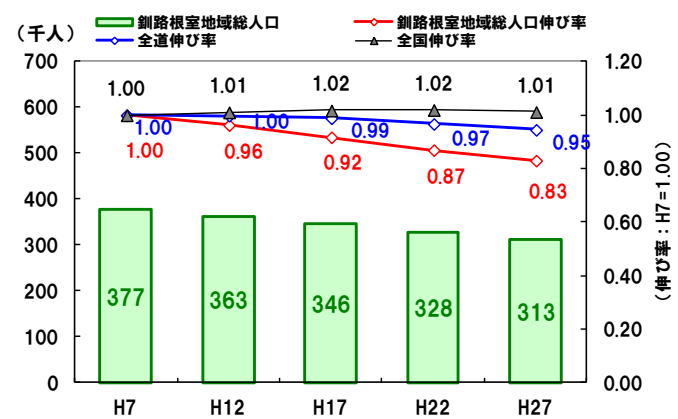
2-3) 地域の概況(人口)

- 釧路根室地域の総人口は約30万人で、そのうち約6割(17.4万人)を釧路市が占める。
- 全国と比較すると人口減少が著しく、高齢者割合も全国平均を上回る水準で高齢化が進行。
- 全国と比較すると、特に40代以下の若い世代の人口割合が低い状況。

▼釧路根室地域の市町村人口

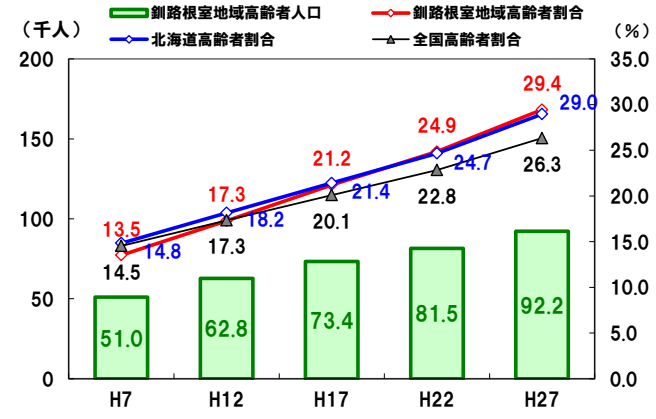


▼総人口の推移



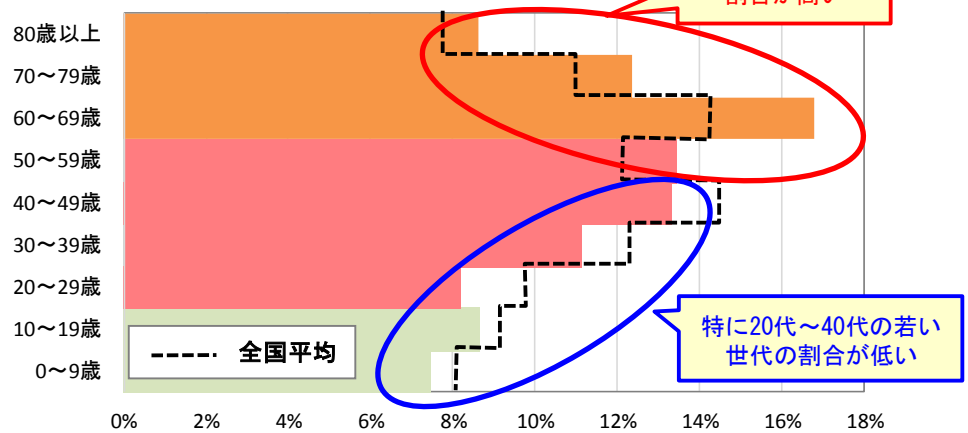
資料: 平成7~27年国勢調査(総務省)

▼高齢者人口の推移



資料: 平成7~27年国勢調査(総務省)

▼釧路根室地域の年齢別人口構成

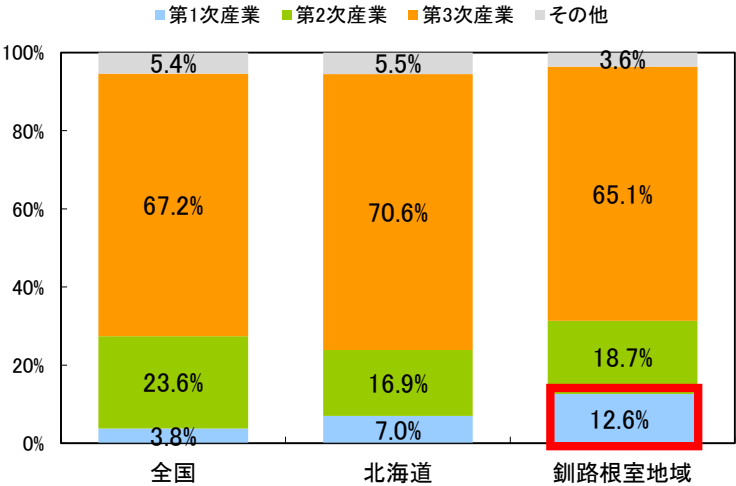


資料: 平成27年国勢調査(総務省)

2-4) 地域の概況(産業)

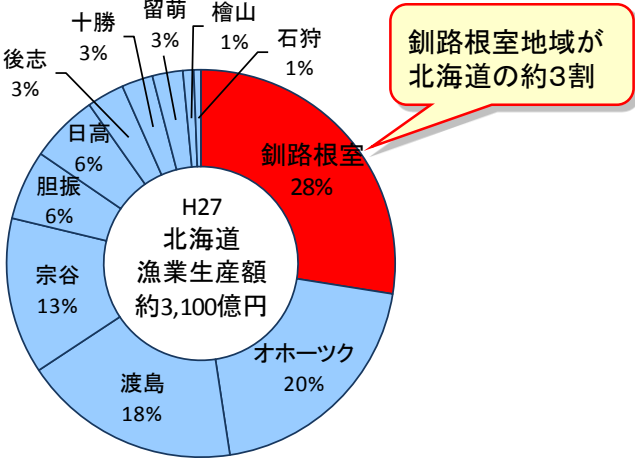
- 釧路根室地域の産業は、全国や北海道全体と比べ、第1次産業の割合が高い。
- 分野別就業人口の特化の度合いでは、農林漁業が高い。
- 漁業や農業の生産額は、日本の食糧基地である道内においても、トップクラスの生産空間。

▼釧路根室地域の就業人口割合



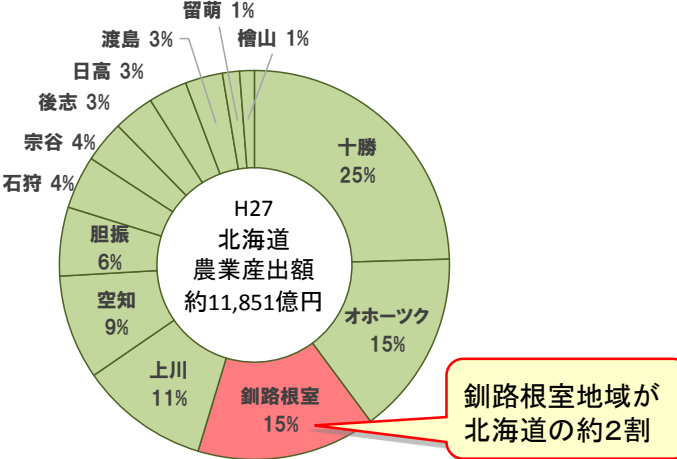
資料：平成27年国勢調査(総務省)

▼北海道の漁業生産額割合



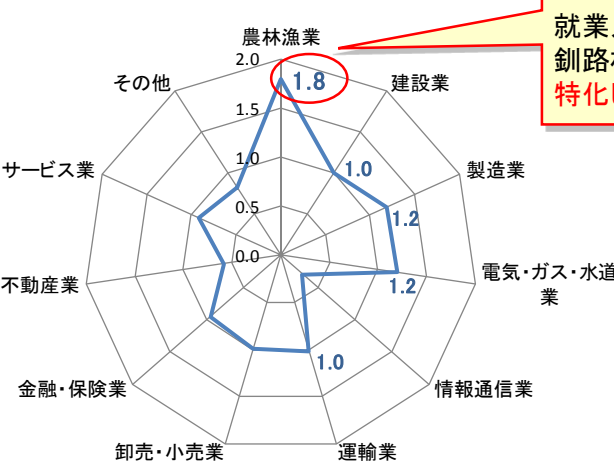
資料：平成27年北海道水産現勢(北海道)

▼北海道の農業産出額割合



資料：平成27年市町村別農業産出額(農林水産省)

▼釧路根室地域の分野別就業人口特化係数



就業人口ベースの特化係数をみると、**釧路根室地域の特徴である農林漁業に特化している。**

【特化係数】
・地域の産業がどれだけ特化しているかを表現する係数で次式で定義される。
$$\text{特化係数} = \frac{\text{対象地域のA業種の全業種に占める構成比}}{\text{全体におけるA業種の全業種に占める構成比}}$$

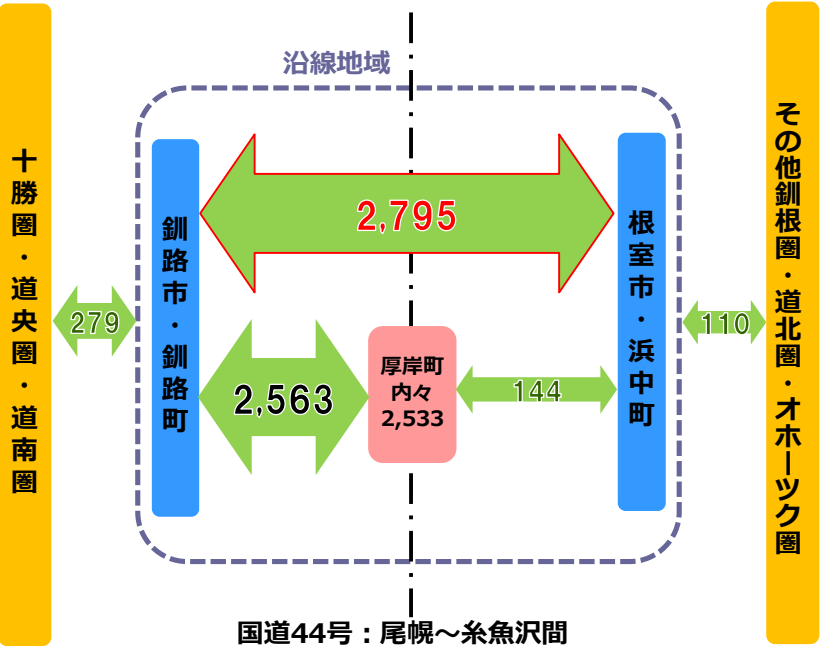
※ここでは全体を北海道とし、各業種の就業人口を用いて比較検討を行っている。

資料：平成27年国勢調査(総務省)

2-5) 地域の概況(交通流動)

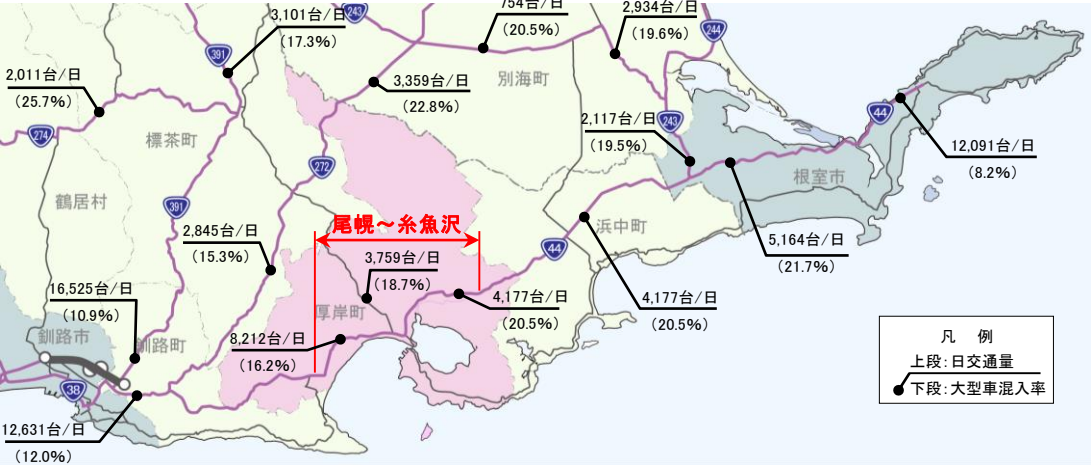
- 当該区間における交通流動は、国道44号釧路市・釧路町～根室市・浜中町間の流動が最も多い。
- また、釧路・根室圏と十勝圏・道央圏・道南圏を行き来する広域的な流動もみられる。

▼国道44号 尾幌～糸魚沢の利用OD



資料：平成22年道路交通センサス（単位：トリップ）

▼周辺の交通量と大型車混入率



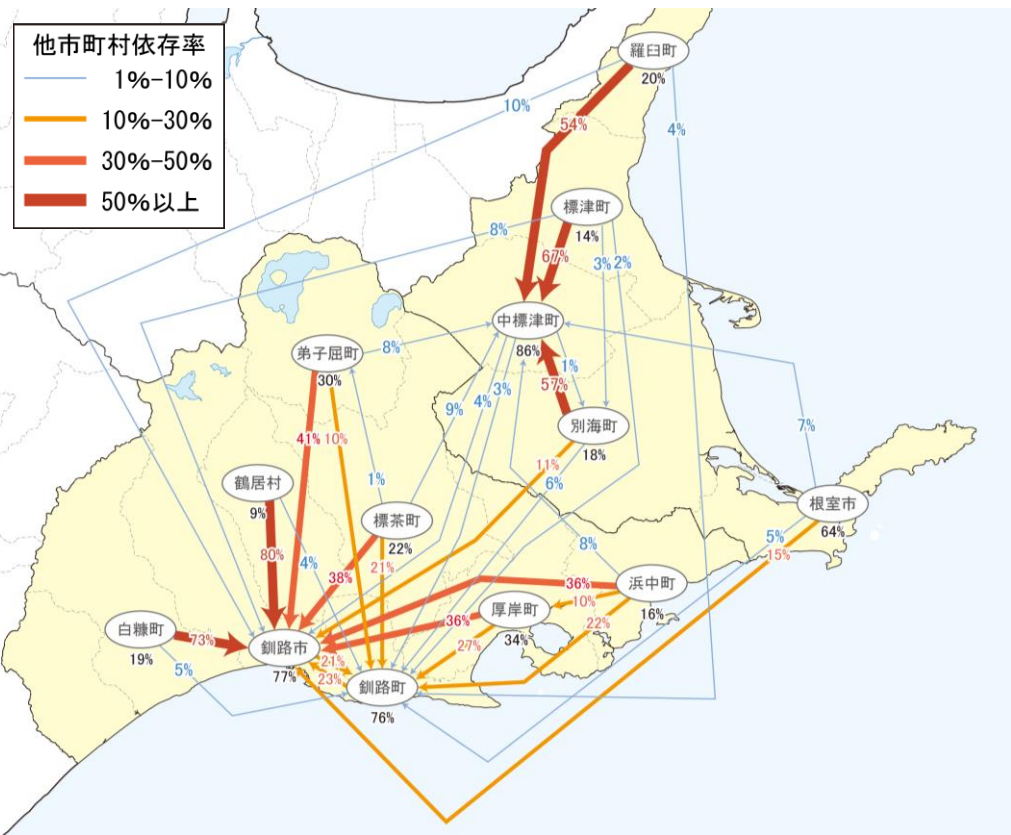
資料：平成27年道路交通センサス

注1：H22道路交通センサスODから国道44号尾幌⇄糸魚沢間を通過するODを抽出し、日交通量にOD比率を乗じ算出。

2-6) 地域の概況(生活交通流動)

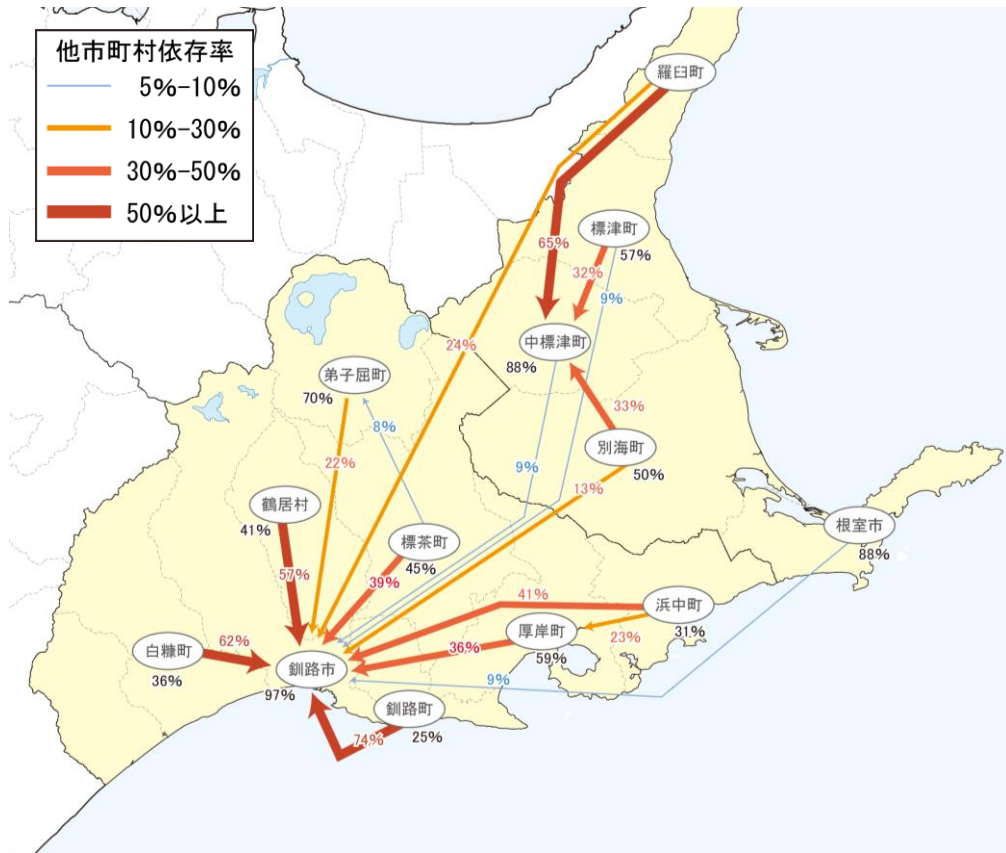
- 買物・通院では、釧路市、中標津町への流動が多い。
- 釧路・根室地域においては釧路市への流動が特に多く、釧路市が中心都市機能を担っている。

▼釧路根室地域の買物動向



資料:平成21年北海道広域商圈動向調査報告書(北海道)

▼釧路根室地域の通院動向

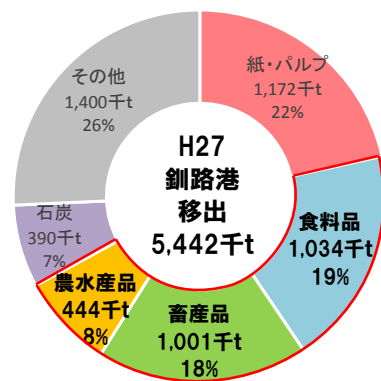
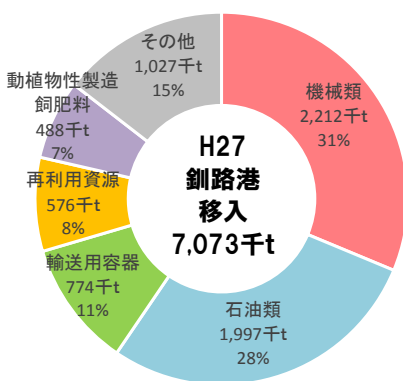


資料:平成22年国民健康保険患者受療動向調査(北海道)

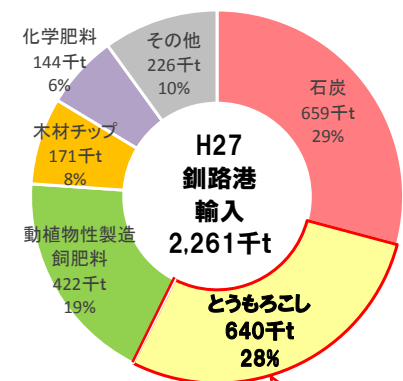
2-7) 地域の概況(釧路港①)

- 釧路港の出入貨物は、移出の約5割が農水産品や畜産品等の食料関連で、輸入の約3割が穀物飼料。
- 釧路港は釧路根室地域を中心に、道東全体に広がる背後圏を有し、東北海道にとって重要な役割を担う。

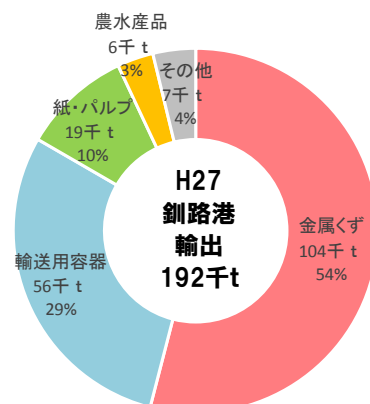
▼釧路港の出入貨物内訳



食料に関する移出が約5割

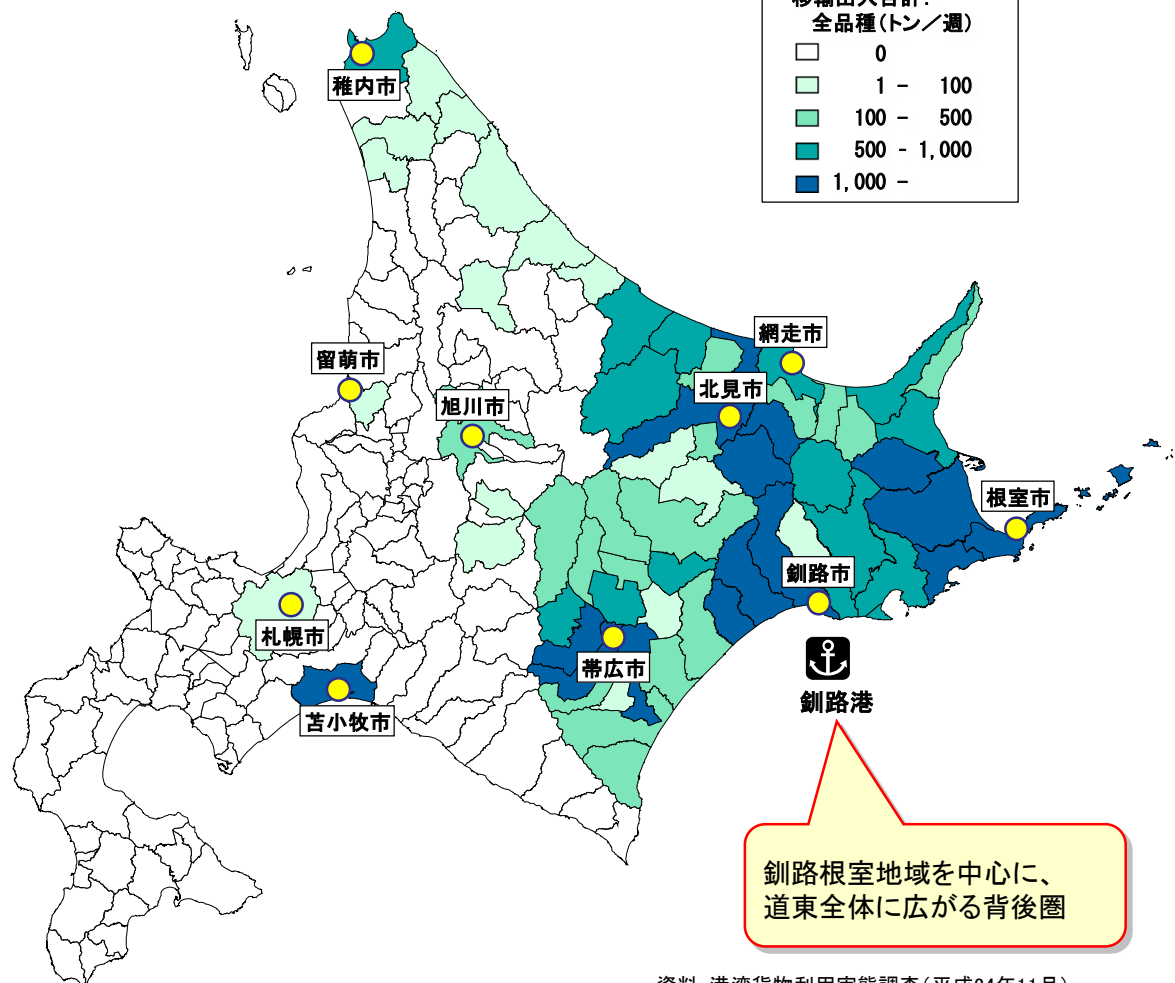


穀物飼料の輸入



資料：平成27年釧路港統計年報(釧路市)

▼釧路港の背後圏



資料：港湾貨物利用実態調査(平成24年11月)
※調査期間：H24.11.5 - H24.11.11

2-8) 地域の概況(釧路港②)

- 釧路港は、大型船に対応した整備や穀物の貯蔵施設等の整備を進めており、平成23年には国際バルク戦略港湾(穀物)、平成28年には全国初の特定貨物輸入拠点港湾(穀物)に指定。
- 平成26年に国際バルク戦略港湾の大型船の入港に対応する国際物流ターミナル整備事業に着手。
- 大型船で穀物を一括大量輸送することにより、海上輸送の効率化が図られ、穀物の海上輸送コスト低減等、安定的かつ安価な輸送を実現。

▼釧路港の整備状況

平成21年	第3埠頭にガントリークレーンを主要設備とした国際コンテナターミナルを整備
平成23年	国際バルク戦略港湾 に選定 西港区第3埠頭に小麦サイロ完成(6基、3,000トン)
平成26年	国際バルク戦略港湾の目標の一つである、 大型船の入港に対応する国際物流ターミナル(-14m岸壁)整備事業着手
平成28年	西港区第2埠頭に穀物サイロ(42基)増設 国内初の 特定貨物輸入拠点港湾(穀物) に指定
平成29年	国際物流ターミナル(-14m岸壁)整備事業完成予定
平成30年代後半 (目標)	バルク貨物増大に対応し、大型船を活用した外内貿物流機能の強化

資料：平成27年釧路港統計年報、港湾計画

国際バルク戦略港湾

産業・生活に不可欠な資源やエネルギー等を安価かつ安定的に供給するため、バルク貨物(穀物、鉄鉱石、石炭)の大型輸送船に対応可能な整備を行い、大量輸送による海上輸送コスト低減をめざす港湾

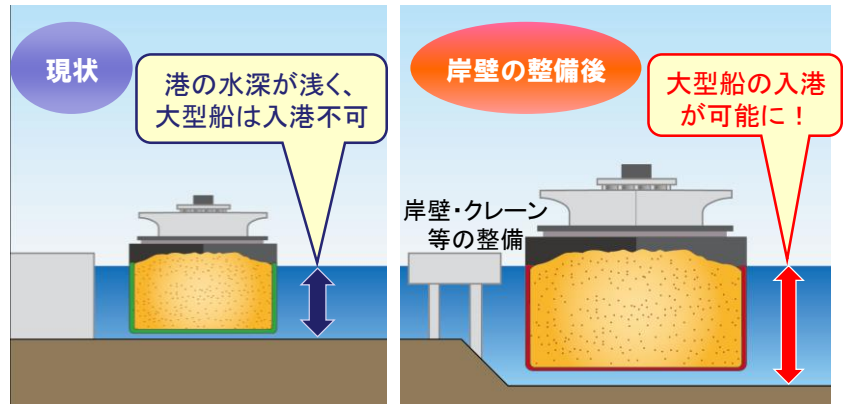
特定貨物輸入拠点港湾

ばら積み貨物の海上運送の共同化を進め、輸入拠点としての機能を高めるべき港湾

- ・ H22. 6. 1より国際バルク戦略港湾を募集。
- ・ H23. 5. 31に国際バルク戦略港湾の選定結果が公表。
【穀物】 鹿島港、志布志港、名古屋港、水島港、**釧路港**
【鉄鉱石】 木更津港、水島港・福山港
【石炭】 徳山下松港・宇部港、小名浜港
- ・ H25. 12. 19に小名浜港が特定貨物輸入拠点港湾(石炭)に指定。
- ・ H28. 2. 24に**釧路港**が特定貨物輸入拠点港湾(穀物)に指定。

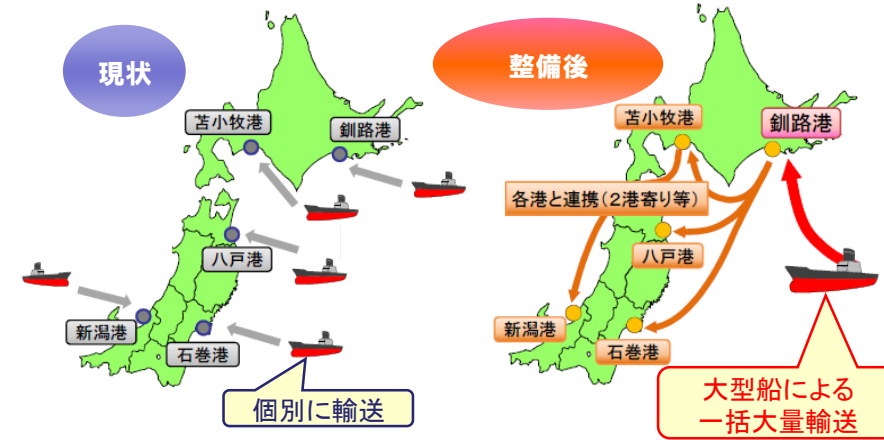
資料：国土交通省

▼国際物流ターミナル整備事業の概要



▼国際物流ターミナル整備後の効果

大型船に対応可能な水深を確保

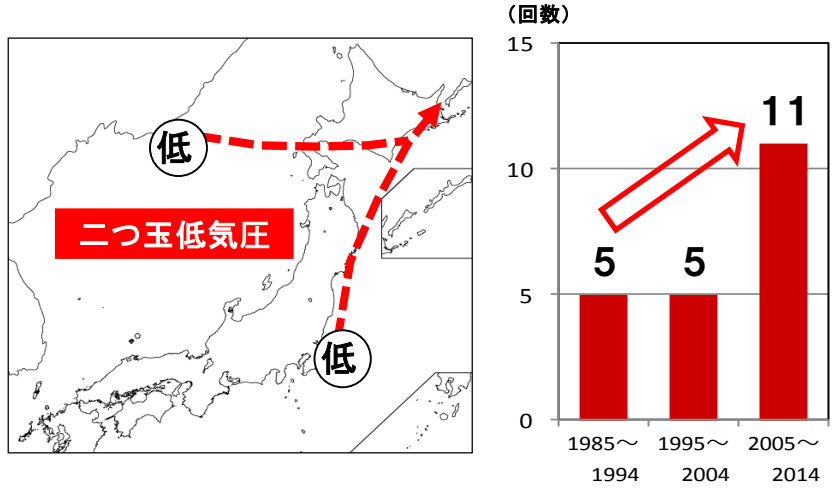


資料：国土交通省 報道発表資料(H28.2.25)の参考資料より抜粋 14

2-9) 地域の概況(気象)

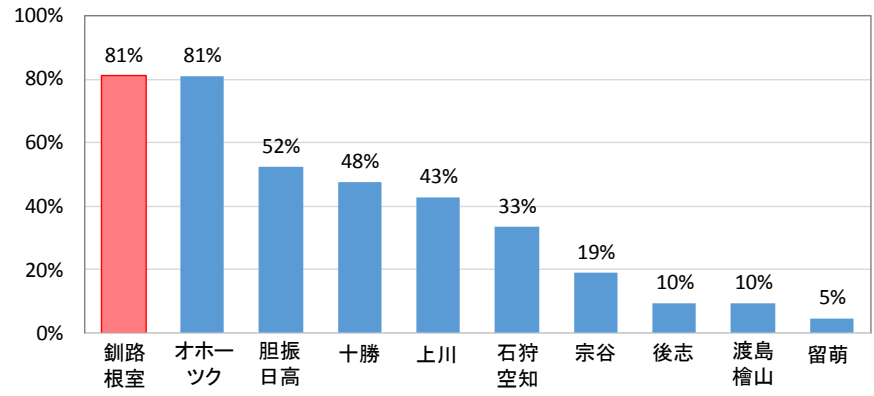
○近年は、暴風雪の要因となることが多い二つ玉低気圧が増加傾向で、道内でも大雪・暴風雪が発生する危険性が高い地域。
○暴風雪による通行止めも増加傾向で、暴風雪発生時は地域全体の交通が麻痺し、集落の孤立も発生。

▼大雪・暴風雪発生時の低気圧の移動経路と発生回数



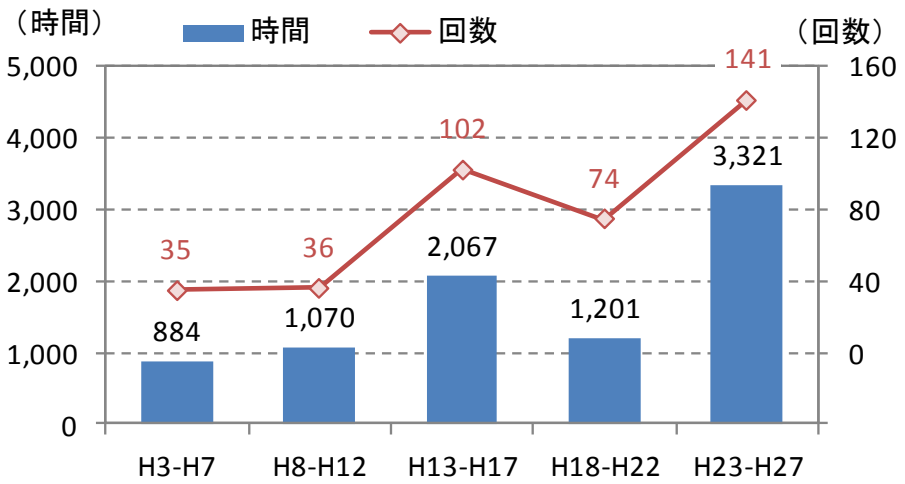
資料：北海道における大雪・暴風雪発生の変化傾向(寒地土木研究所)

▼二つ玉低気圧発生時の国道通行止め発生割合



資料：北海道における大雪・暴風雪発生の変化傾向(寒地土木研究所)

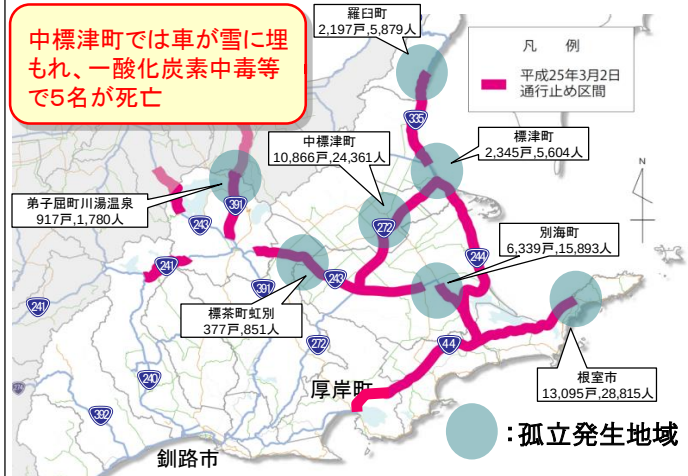
▼暴風雪による通行止め発生状況



資料：釧路開発建設部

▼H25年3月暴風雪時の通行止め状況

- 管内国道の7路線10区間で通行止め (最大30時間:国道243号)
- 国道通行止め延長は管内総延長の約40%(約320km)に達し、孤立集落が発生

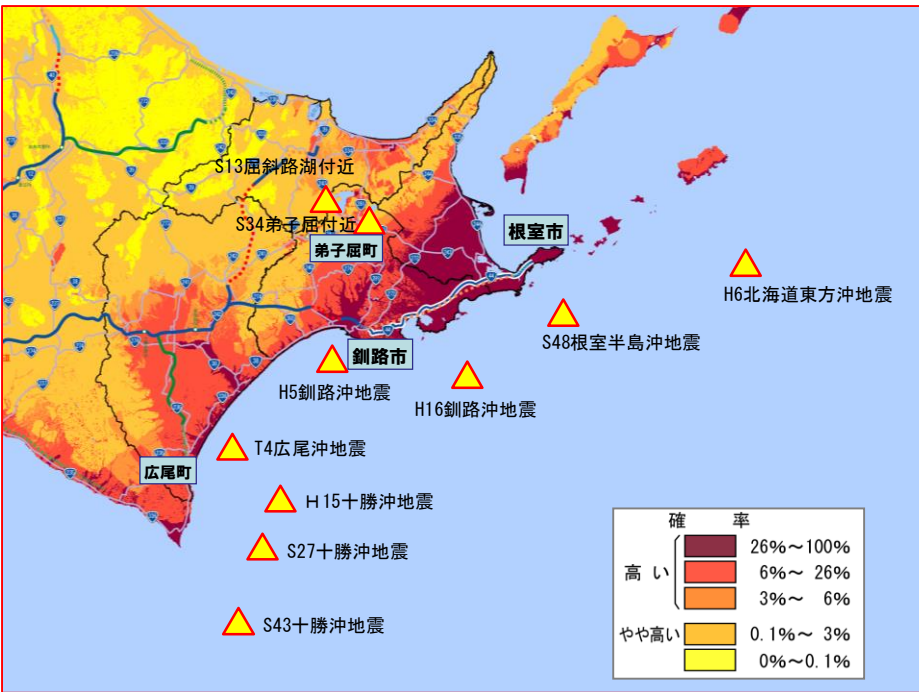


資料：釧路開発建設部

2-10) 地域の概況(地震)

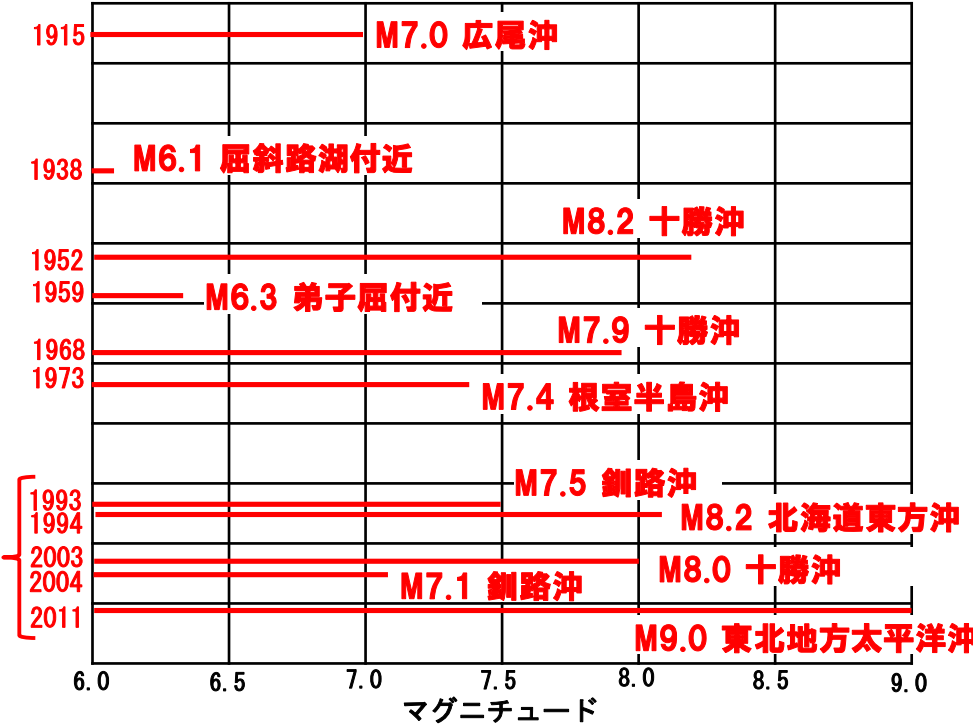
○釧路根室地域は、今後30年以内に震度6弱以上の大規模地震の発生する確率が非常に高い地域。
○近年は、北海道東部を震源とするM7.0以上の地震が4年に1回発生するなど頻発(約20年で5回発生)。

▼今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布



資料：地震調査研究推進本部資料と高規格幹線道路網を重ね合わせて釧路開発建設部作成

▼北海道東部に被害の発生した近年の主な地震履歴



近年はM7.0以上の地震が約20年で5回発生

資料：地震調査研究推進本部事務局HP(文部科学省)

▼国道の被害状況(H5釧路沖地震)



▼国道の被害状況(H5釧路沖地震)



▼道路の浸水状況(H23東日本大震災)



▼漁船漂流状況(H23東日本大震災)



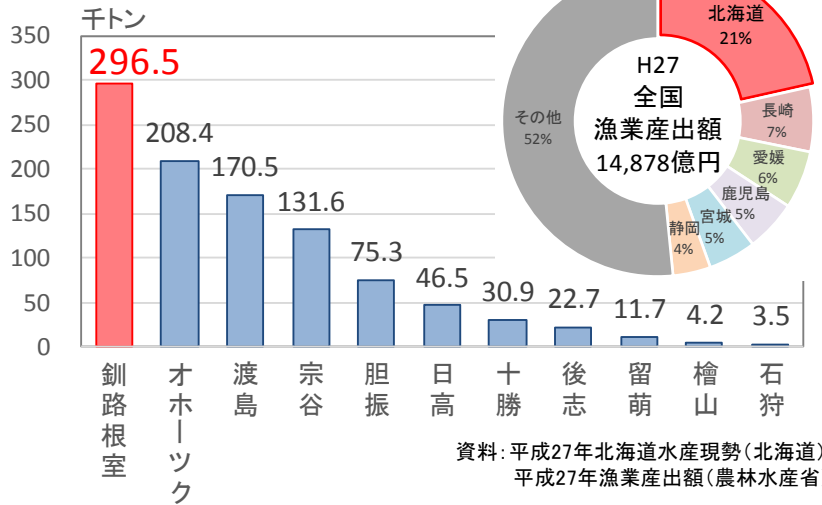
3. 地域の状況と課題

3-1) 地域の状況と課題(農林水産業①)

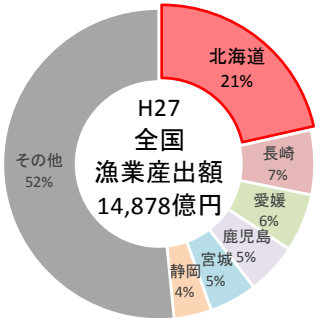
○北海道は全国1位の漁業産出額(21%)。中でも釧路根室地域は、地域別漁獲量で全道1位(約297千トン)を誇り、さんまは全国1位、さけ・ますは全国2位の漁獲量。根室市、厚岸町では、高鮮度・高品質なブランドさんまを出荷。

○沿線地域の水産物は、国道44号を利用して釧路港等から全国へ出荷されるほか、一部のさんまやかきのブランド品は釧路空港を利用して出荷。

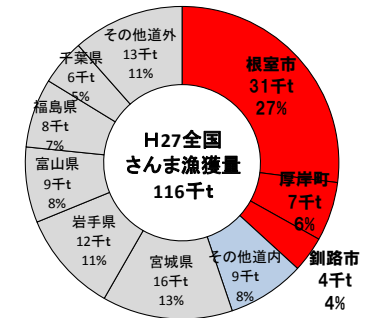
▼地域別漁獲量



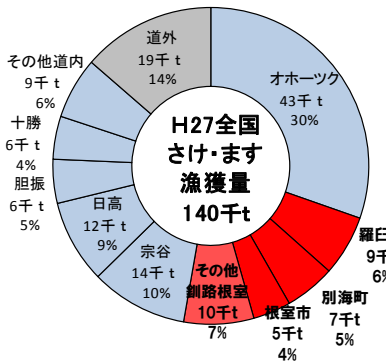
▼漁業産出額全国シェア



▼さんまの漁獲量全国シェア



▼さけ・ますの漁獲量全国シェア



資料: 平成27年漁業・養殖業生産統計(農林水産省)
注: 釧路根室管内の自治体は北海道水産現勢の漁獲量シェアを用いて算出

▼水産物の輸送ルート



資料: 平成27年漁業・養殖業生産統計(農林水産省)、平成27年北海道水産現勢、厚岸漁協、水産事業者ヒアリング調査結果
注: さんま、さけ・ます水揚量は平成27年漁業・養殖業生産統計に北海道水産現勢の漁獲量シェアを用いて算出

根室の一本立ち歯舞さんまや厚岸町の大黒さんま、国内で唯一通年出荷を行っているカキえもん等、高鮮度・高品質なブランド水産物を出荷

旨さと鮮度に堂々の自信!

歯舞さんま

賞状も産品が誕生しました!

歯舞さんまとは?

歯舞が産する新鮮なさんまは、鮮度が高く、旨味と歯のりが良いです。品質・鮮度の高い歯舞さんまを、皆様の食卓へお届けします。

根室市産

歯舞さんまの産地

歯舞さんまの産地

歯舞さんまの産地

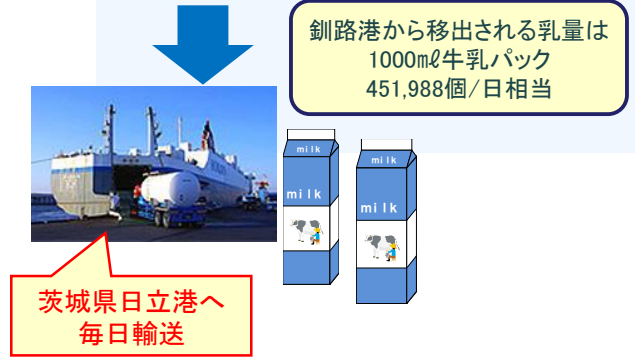
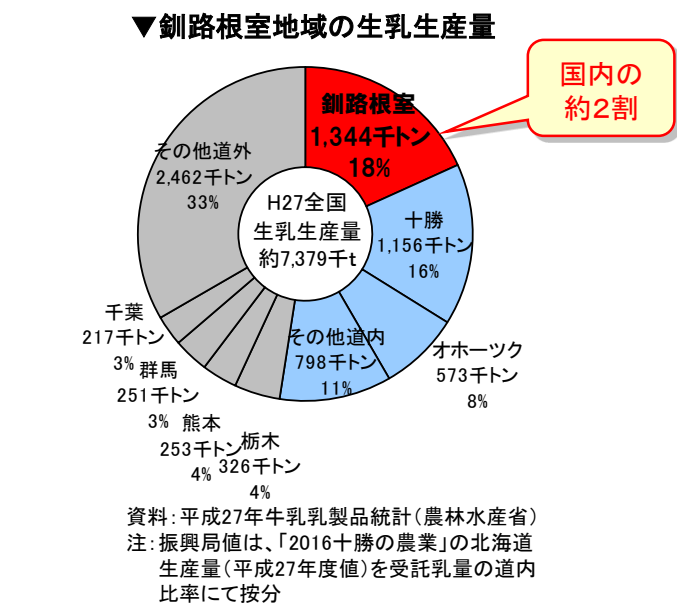
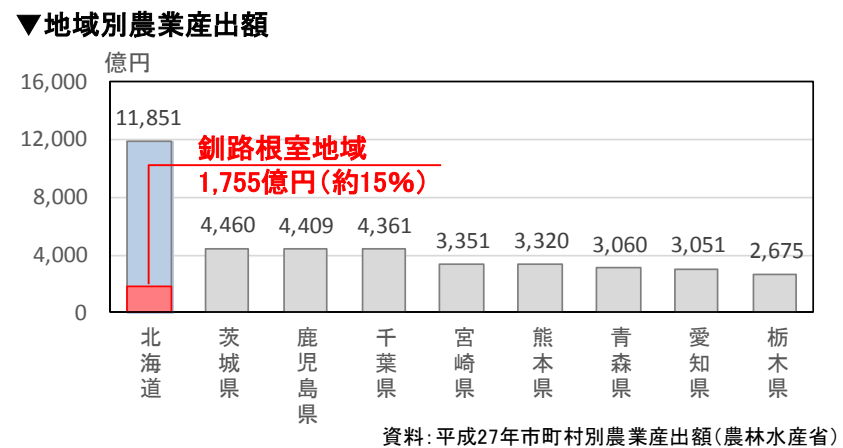
大黒さんま

大黒さんま

大黒さんま

3-2) 地域の状況と課題(農林水産業②)

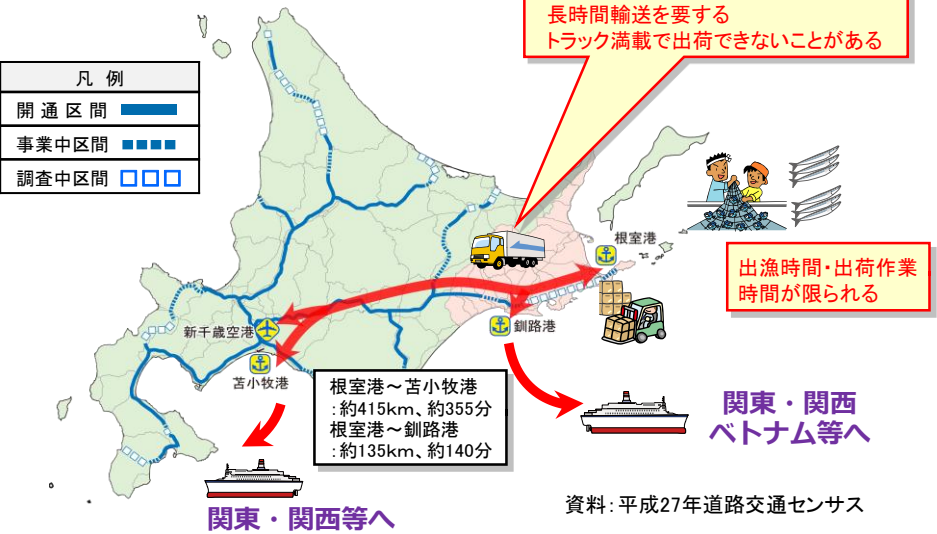
○北海道の農業産出額は他都府県より突出しており、なかでも釧路根室地域は全道の約15%を占める。
特に生乳は、全国生産量シェアの約2割を占める。
○乳用牛の餌となる穀物飼料は、釧路港の飼料工場から酪農家に配送され、生産された生乳は、毎日、釧路港から茨城県日立港へ海送し、関東圏へ輸送。



3-3) 地域の状況と課題(農林水産業③)

- さんま漁獲量全国シェア1位の根室市では、近年ベトナムへの輸出が増加するなど、水産業が地域の基幹産業。
- 釧路根室地域は道内の物流拠点までの距離が長く、長距離の陸上輸送を強いられている中、貨物自動車運送事業者数及び車両数が減少傾向。
- 国内外への販路拡大等が取り組まれる中、水産物の安定供給のための輸送効率性が課題。

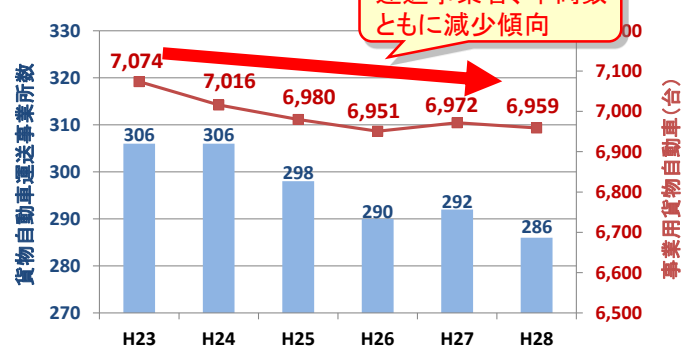
▼釧路根室地域から物流拠点までの輸送



▼水産業関係者の声

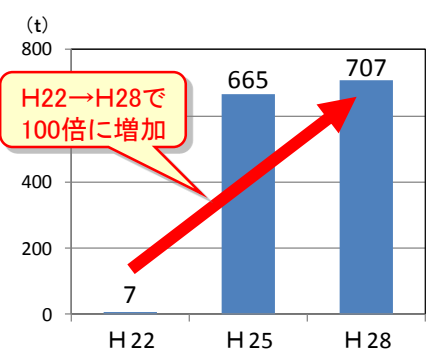
- ・10～15分余裕があれば、荷物を半分くらいで出荷していたトラックおよびトレーラーを満載にして出荷できる可能性がある。(運送会社)
- ・ドライバーが不足している中、輸送時間が短縮されれば、時間に余裕ができ、**運転手の疲労軽減が期待**できる。歩行者や信号などが多い町中を運転するのは疲労がたまりやすい。(運送会社)
- ・釧路まで冬でも定時で走れるようになることで、出荷作業に要する時間の確保が可能となり、**価格低下を防げる**と思う。
- ・時間短縮により、**漁の時間が増えることや事故の軽減**が期待される。(根室湾中部漁業協同組合)

▼貨物自動車運送事業者数及び車両数(釧路運輸支局管内)



資料:運輸局・支局別貨物自動車運送事業者数(国土交通省) 自動車保有数調べ(北海道運輸局)

▼根室産さんまのベトナム輸出実績



資料:根室市

▼根室地域における販路拡大・輸出拡大の取り組み

- ・官民連携プロジェクトとしてH22に「**根室市アジア圏輸出促進協議会**」を発足。
- ・ベトナムを最初のターゲットに、**アジア市場に向け輸出促進の取り組みを推進**。
- ・差別化を図るため、根室ブランドの浸透を目的に「**根室のサンマ**」の商標登録を申請するなどブランド戦略を展開。
- ・根室港は輸出促進のための行動計画を策定
- ・国土交通省は、根室港を**全国初の「農水産物輸出促進基盤整備事業」における連携水揚港(水産業の集積する港湾)に認定**



根室産サンマ輸出用ブランドマーク

資料:根室市HP、北海道開発局資料

3-4) 地域の状況と課題(医療①)

- 高次医療に対応可能な診療科目は釧路市に集中し、救急搬送先も釧路市に集中。
- 釧路根室地域は、第3次救急医療機関(市立釧路総合病院)の1施設あたりのカバー面積が全国1位の広さで、高齢者の救急搬送件数と割合は増加傾向。

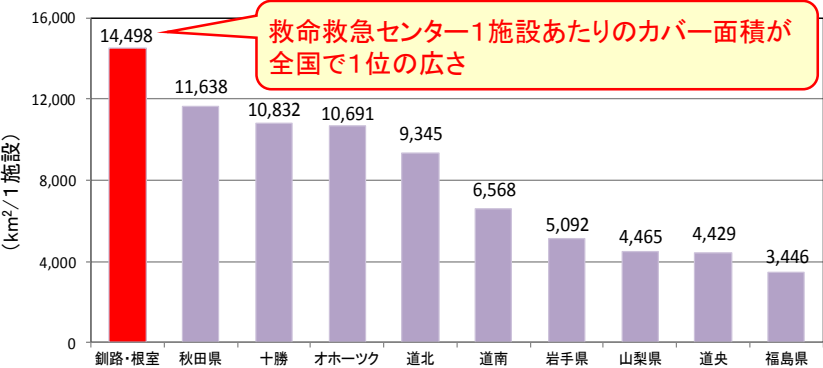
▼釧路根室地域の高次医療に対応可能な診療科目市町村別一覧

第3次救急医療機関、重篤な病状や分娩に対応できる病院が釧路市に集中

診療科目名	釧路市	根室市	釧路町	厚岸町	浜中町	標茶町	弟子屈町	鶴居村	白糠町	別海町	中標津町	標津町	羅臼町
循環器科	12	3	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
心臓血管外科	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
脳神経外科	6	1	0	※1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
産婦人科	4	※1	0	0	0	※1	0	0	0	1	2	0	0
第3次救急医療機関	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

資料：北海道救急医療・広域災害情報システム(H29.4現在)
※：根室市立病院は条件付で分娩可、標茶町立病院は分娩を実施していない
※：町立厚岸病院の脳神経外科の診療は、出張医による隔週金曜日に限定(H29.6時点)

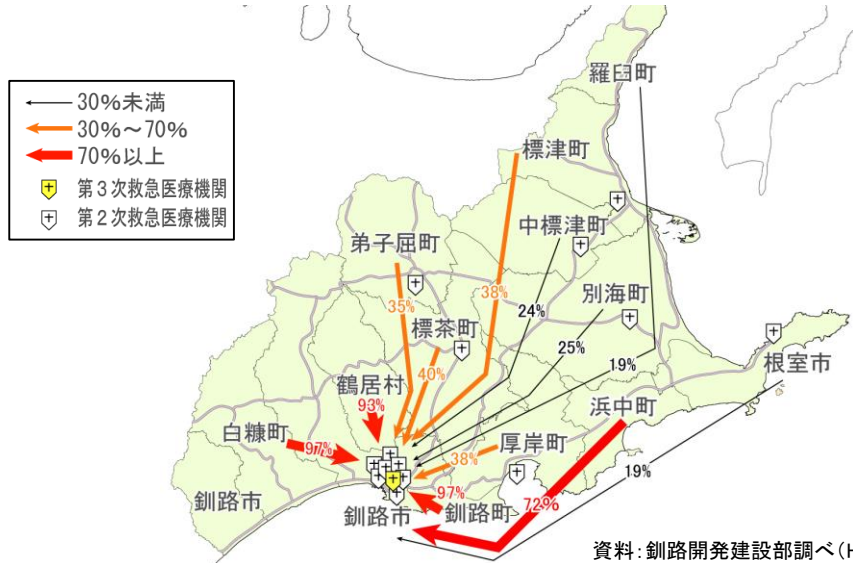
▼第3次救急医療機関1施設あたりの3次医療圏カバー面積(上位10位)



救命救急センター1施設あたりのカバー面積が全国で1位の広さ

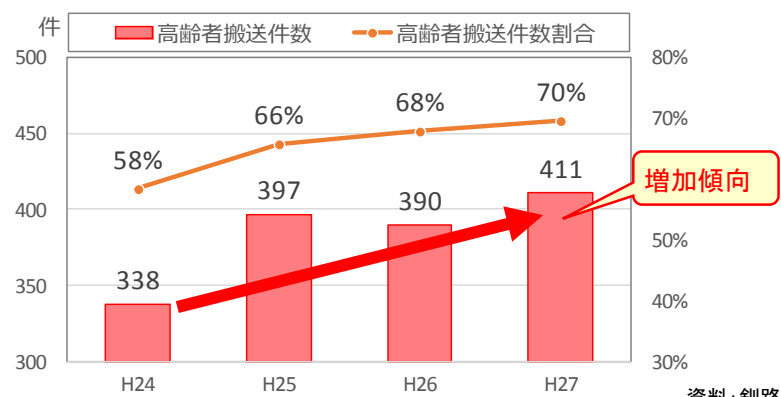
資料：平成27年全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院)、全国救命救急センター設置状況H28.8現在(日本救急医学会)

▼釧路根室地域における釧路市への救急搬送割合



資料：釧路開発建設部調べ(H27)

▼厚岸町、浜中町の高齢者搬送件数・割合



増加傾向

3-5) 地域の状況と課題(医療②)

- 第3次救急医療機関へ60分以内に到着できない厚岸町の人口は、夏季において1.0千人(10%)、冬季悪天候時には搬送時間が増加し、9.3千人(95%)に拡大。
- 厚岸町、浜中町、根室市は、第3次救急医療機関(市立釧路総合病院)までの所要時間が長く、心疾患や脳疾患の死亡率が全道平均と比較して高い水準にあり、救命率向上が必要。
- 第3次救急医療機関としての機能を果たすには、年間を通じた釧路市への救急搬送の速達性向上が課題。

▼第3次救急医療機関60分カバー圏

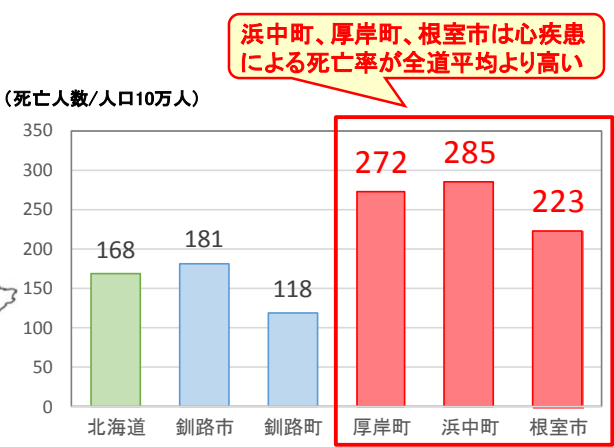


【厚岸町の第3次救急医療機関60分圏外人口割合】

	厚岸町人口	60分圏域外人口(割合)
夏季	9.8千人	1.0千人(10%)
冬季		3.7千人(38%)
冬季悪天候時		9.3千人(95%)

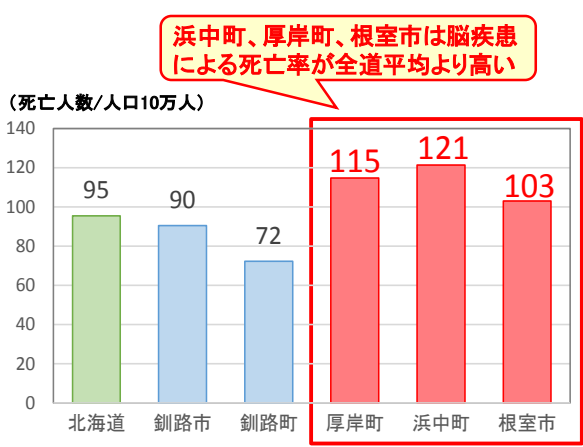
資料:平成27年国勢調査

▼人口10万対死亡率(心疾患)



資料:北海道保健統計年報(H20~26)

▼人口10万対死亡率(脳血管疾患)



資料:北海道保健統計年報(H20~26)

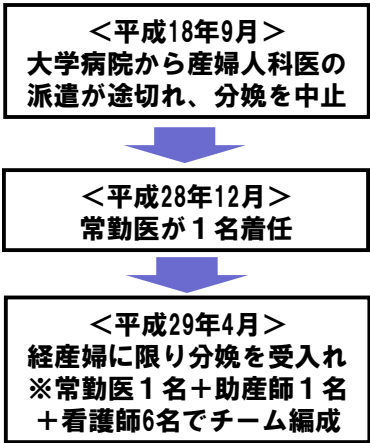
▼根室市消防本部の声

- ・脳梗塞の場合4時間30分以内に適切な治療を行うことが重要であるが、釧路・根室地域で治療を行えるのは市立釧路総合病院、釧路孝仁会記念病院、釧路ろうさい病院のみである。
- ・根室市消防本部には救急車が3台のみであり、搬送件数が多い場合や、長時間を要する釧路市への搬送がある場合には出動できる救急車がなくなってしまう場合がある。

3-6) 地域の状況と課題(医療③)

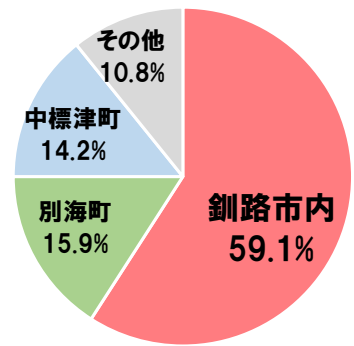
- 釧路～根室間においては、平成18年に根室市で分娩が休止されて以降、常時分娩可能な医療施設は釧路市のみ。
- 釧路根室地域でハイリスク出産に対応できる施設は釧路市にしかないが、根室-釧路間は2時間以上を要する。
- 安心して暮らせる地域を形成するためには、釧路市への速達性向上が課題。

▼市立根室病院の分娩対応状況



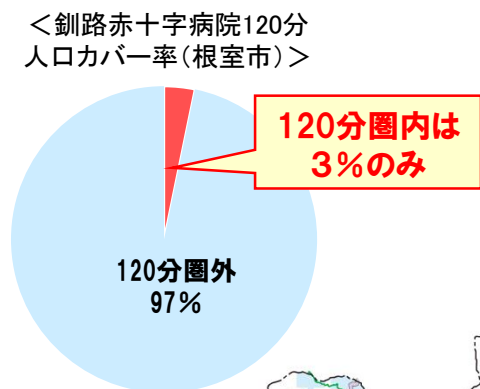
資料：H29.2.21北海道新聞記事、釧路新聞記事

▼根室市の分娩先(H24)



資料：北海道医療計画 根室地域推進方針

▼釧路赤十字病院への120分カバー圏



根室市ではH18に産婦人科が休止以来、初産婦は市内で分娩できないため、2時間以上かけて釧路市へ

資料：平成27年国勢調査

▼周産期医療の課題

医療計画	記載内容
北海道医療計画根室地域推進方針	根室市から総合周産期母子医療センター(釧路市)までの移動時間は、自動車等で2時間を超えており、迅速な搬送など、緊急時の対応を整える必要があります。
北海道周産期医療体制整備計画	妊産婦の居住地から自家用車で冬期間の移動時間が概ね120分、移動距離が概ね100Kmの範囲内に産科医療機関が存在すれば、最低限、墜落分娩などの危険を避けることができると考え設定

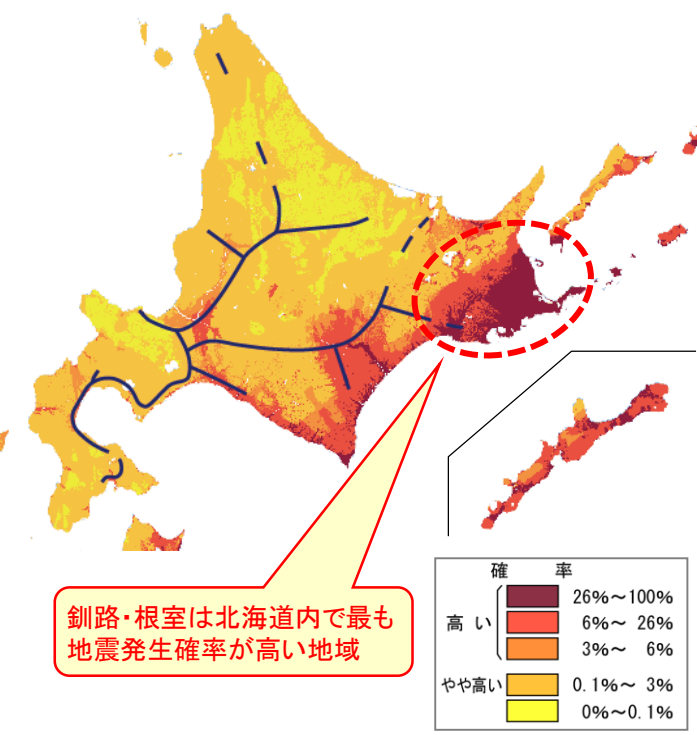
▼地域の声

・根室の妊婦が抱える不安として、通院時間が長くなることや、上の子供を連れて通院する不安、緊急事態への不安が強い。
【釧路赤十字病院産婦人科 アンケート調査】

3-7) 地域の状況と課題(災害)

- 釧路根室地域は大規模地震の発生確率が高く、国道44号では厚岸市街を中心に津波浸水予測範囲が広がっている。
- 大規模地震による津波が発生した場合、釧路～根室間が途絶され、救援物資の輸送や災害復旧に大きく影響。

▼今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布



資料：全国地震動予測地図2017年版（地震調査研究推進本部）と高規格幹線道路網を重ね合わせて釧路開発建設部作成

▼釧路～根室間の津波浸水予測範囲



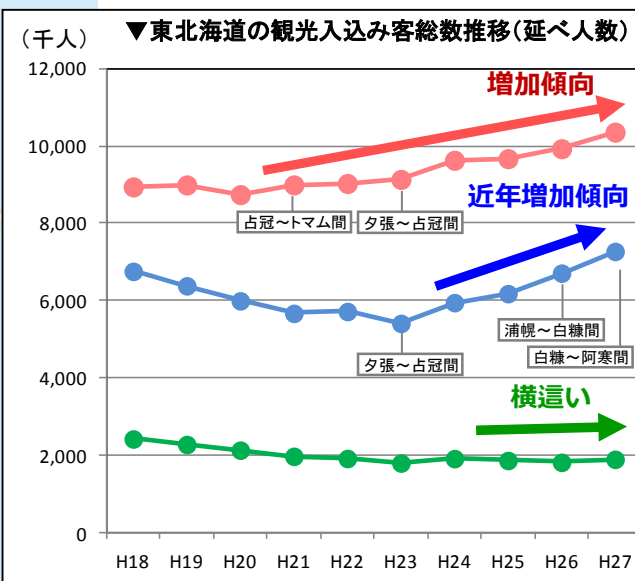
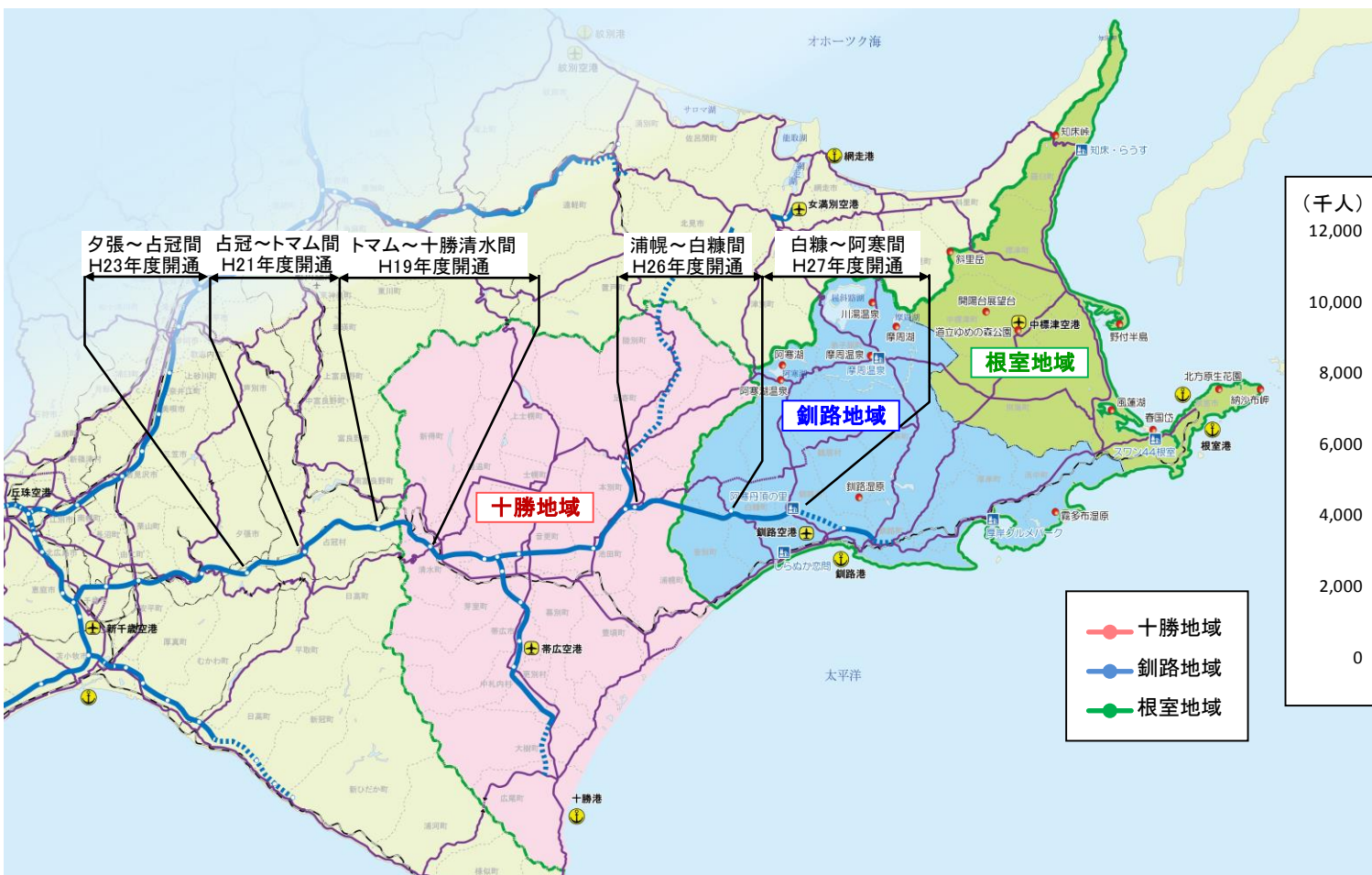
資料：北海道防災会議地震専門委員会資料の津波浸水予測範囲をもとに釧路開発建設部作成

東日本大震災時は住民約1千人が避難

3-9) 地域の状況と課題(観光②)

○平成23年に夕張IC～占冠IC間の開通により、札幌市や新千歳空港と高規格幹線道路により接続された十勝地域や釧路地域は、観光入込客数(延べ人数)が増加傾向を示す一方、高規格幹線道路ネットワークが未完である根室地域では横這い傾向。

▼圏域別・観光入込客総数(延べ人数)伸び率比較(H18-H27)

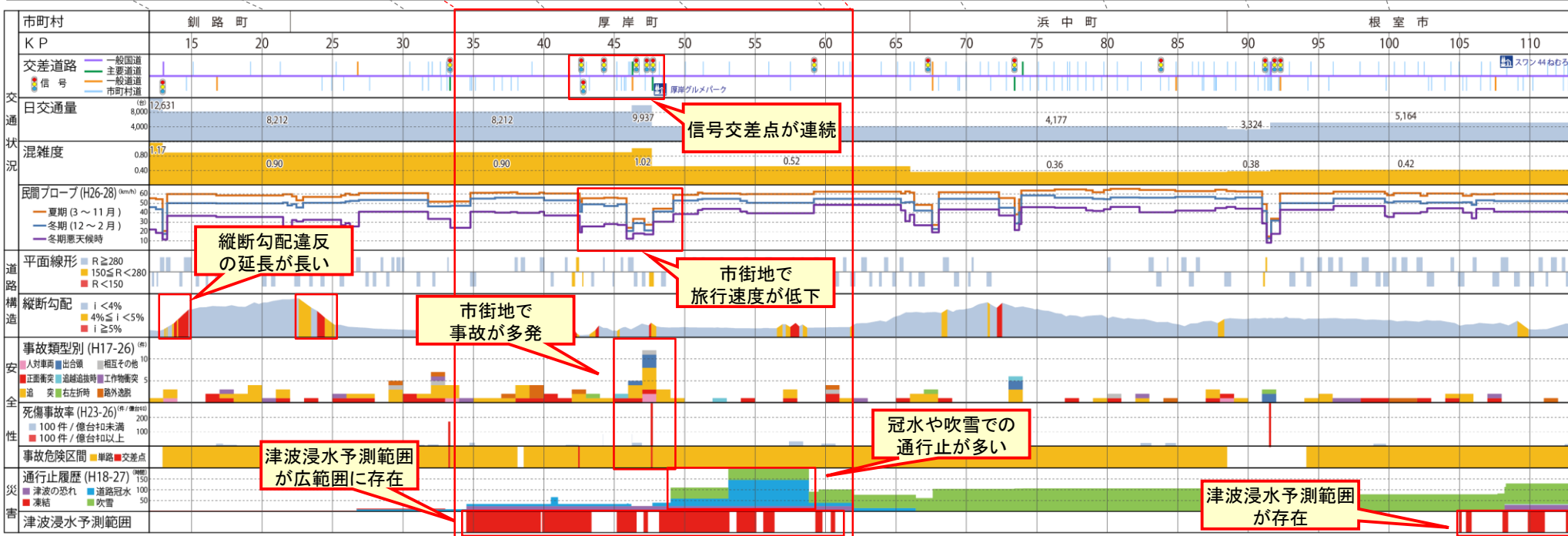
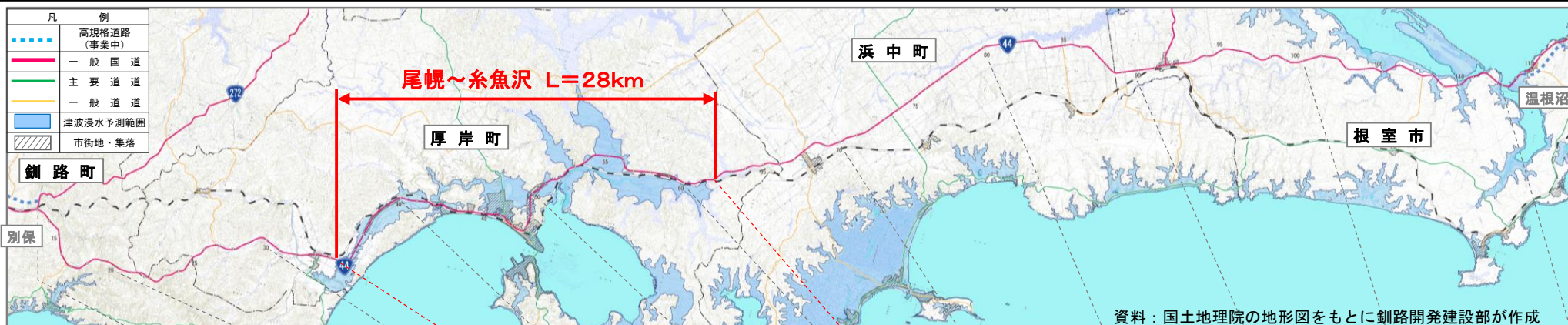


資料：北海道観光入込客数調査報告書
(北海道経済部観光局)

4. 道路の状況と課題

4-1) 国道44号の道路課題

- 別保～温根沼間では、厚岸町に最大の市街地が存在し、信号交差点が連続。
○厚岸町市街地を含む尾幌～糸魚沢間は旅行速度低下や事故多発、冠水や吹雪による通行止め、津波浸水予測範囲が存在するなど、道路課題が集中。

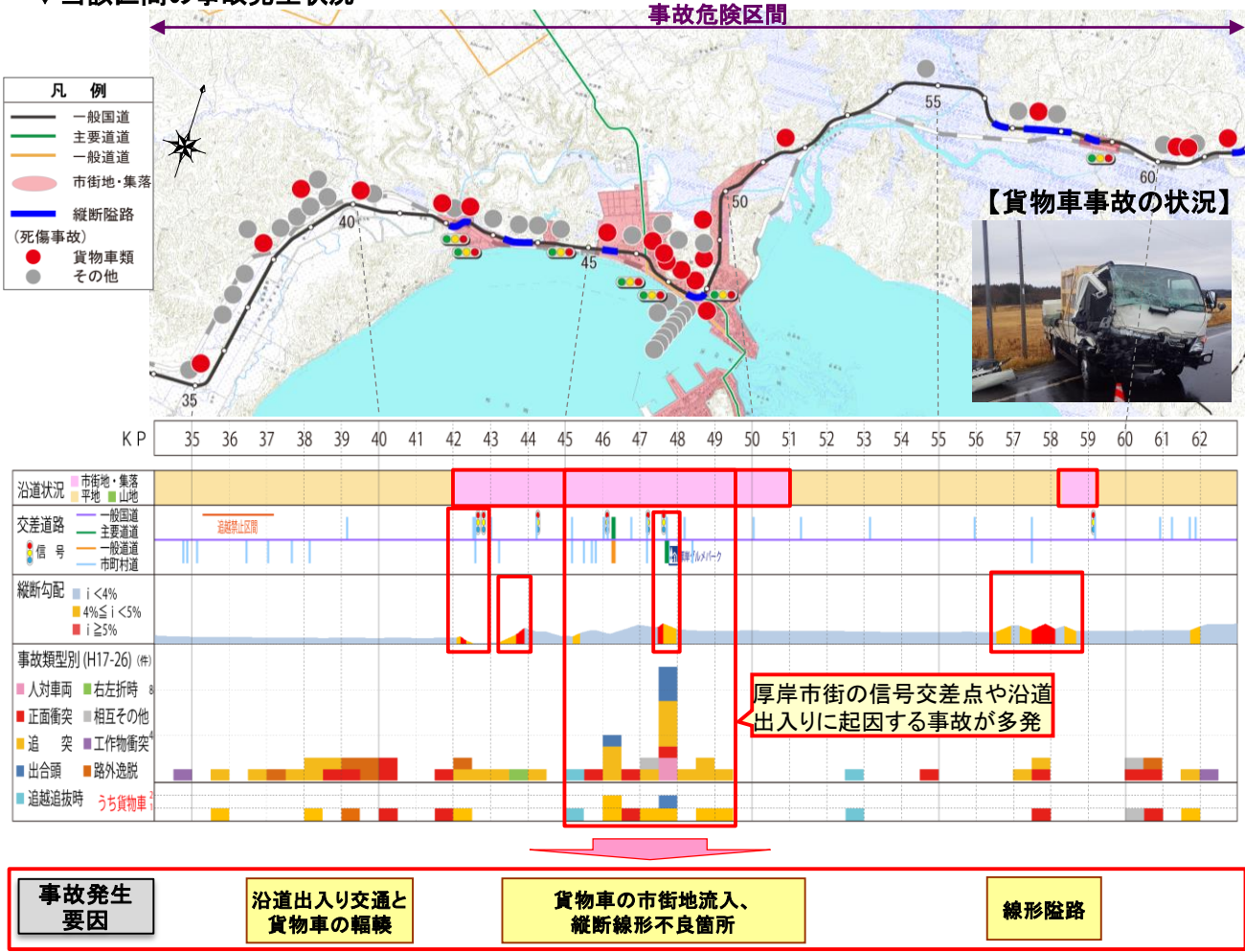


資料：平成27年道路交通センサス、民間プローブ（H26-28）、道路台帳、事故マッチングデータ（H17-26）、北海道開発局記者発表資料H29.3.30、釧路開発建設部、北海道防災会議地震専門委員会資料

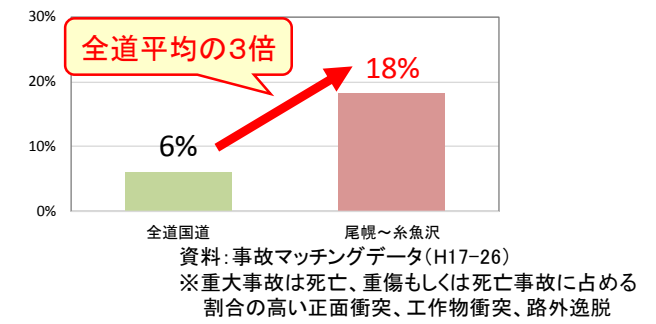
4-2) 道路の状況と課題(事故)

- 主要農水産品の出荷主要ルートである当該区間は、貨物車種の重大事故発生割合が高い。
- 全道国道平均と比較して当該区間では正面衝突や追越追抜時、路外逸脱の事故割合が約3倍と高く、区間全体で発生。
- 釧路～根室間では、線形隘路の6割以上が厚岸町に存在し、線形隘路での事故の約8割が厚岸町で発生。

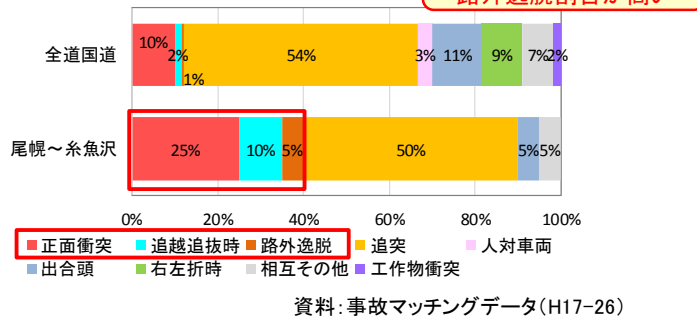
▼当該区間の事故発生状況



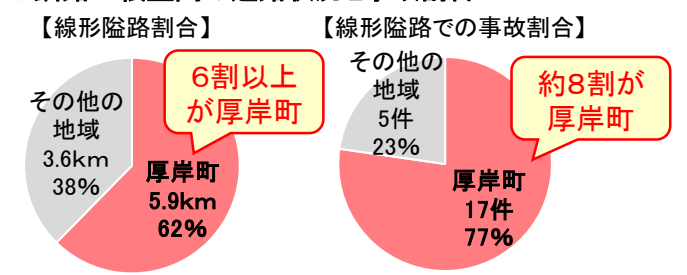
▼貨物車種の重大事故割合



▼貨物車の事故類型別発生割合



▼釧路～根室間の道路状況と事故割合

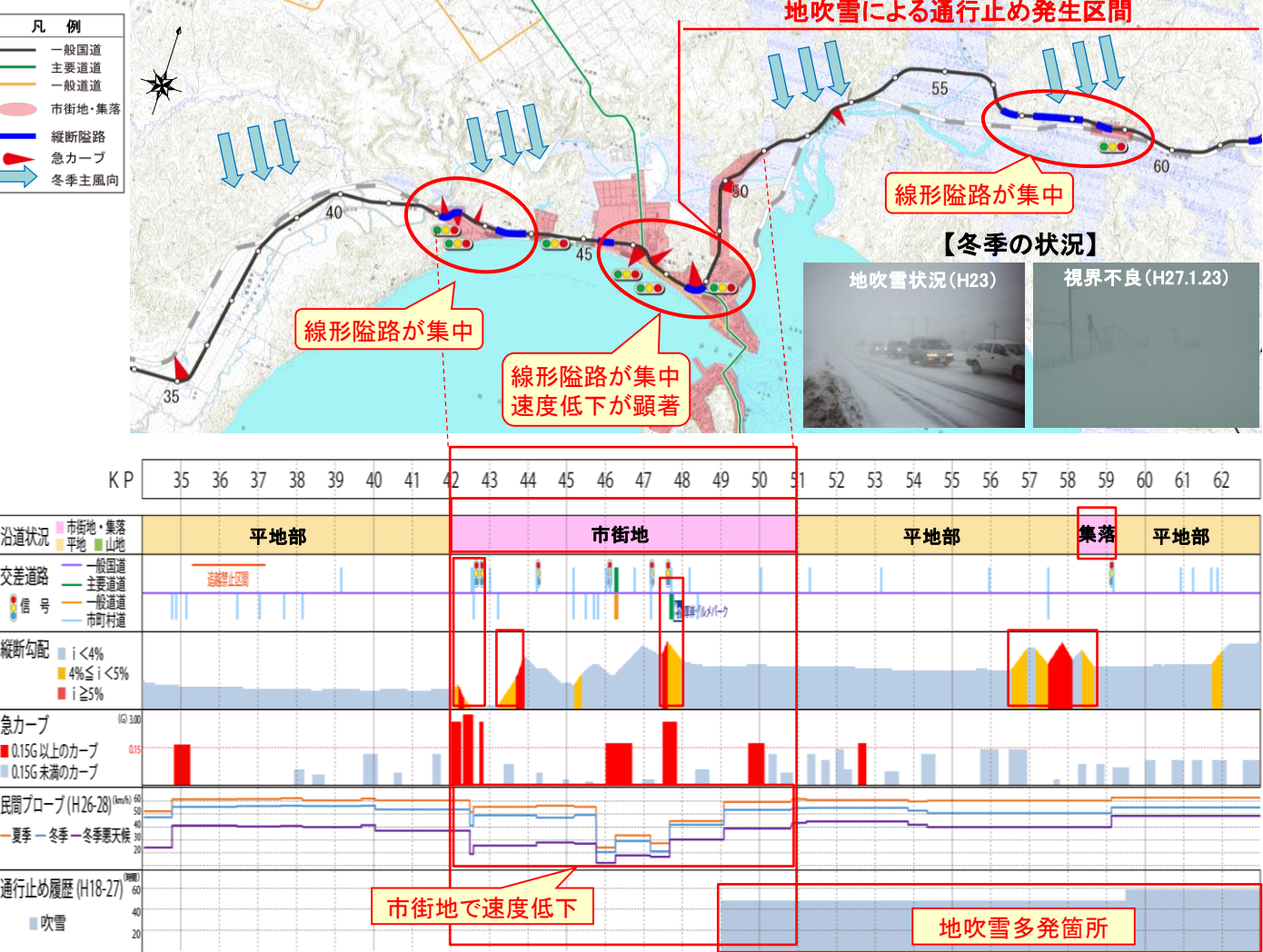


資料: 事故マッチングデータ(H17-26)
※事故危険区間: 事故データや地域住民からの意見をもとに選定。また、事故の多発する可能性が高い「データによる潜在的な危険箇所」を選定。
資料: 上図は国土地理院の地形図をもとに釧路開発建設部が作成

4-3) 道路の状況と課題(冬季の状況)

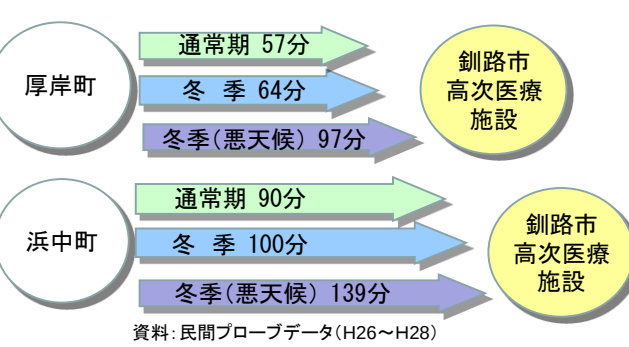
○市街地間は、線形不良や冬季路面、視界不良等により走行性が低下し、拠点間の定時性確保が困難。
○当該区間では、冬季の約5割の期間で交通阻害となる冬季路面や視程障害が発生。

▼尾幌～糸魚沢間の冬季走行環境

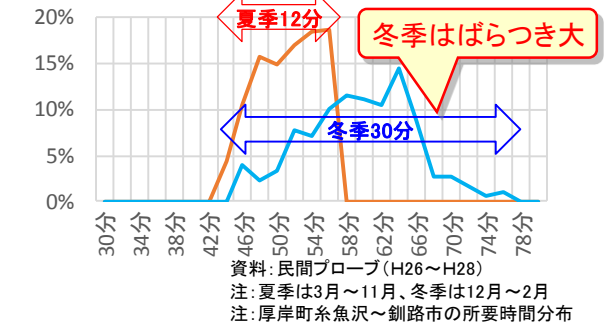


資料: 上図は国土地理院の地形図をもとに釧路開発建設部が作成、民間プローブ(H26-28)の夏季は3～11月、冬季は12～2月
注: 急カーブは救急搬送時(80km/h)に横加速度が0.15以上となり、血圧変動を生じさせるカーブ

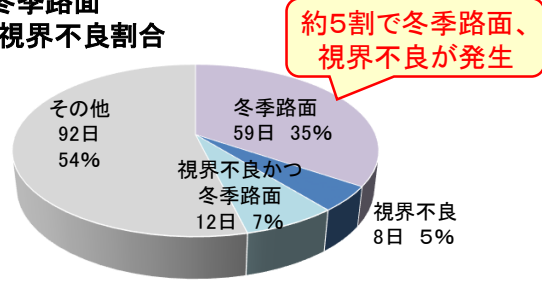
▼釧路市の高次医療施設への所要時間比較



▼厚岸町～釧路市間の所要時間の分布



▼冬季路面 視界不良割合



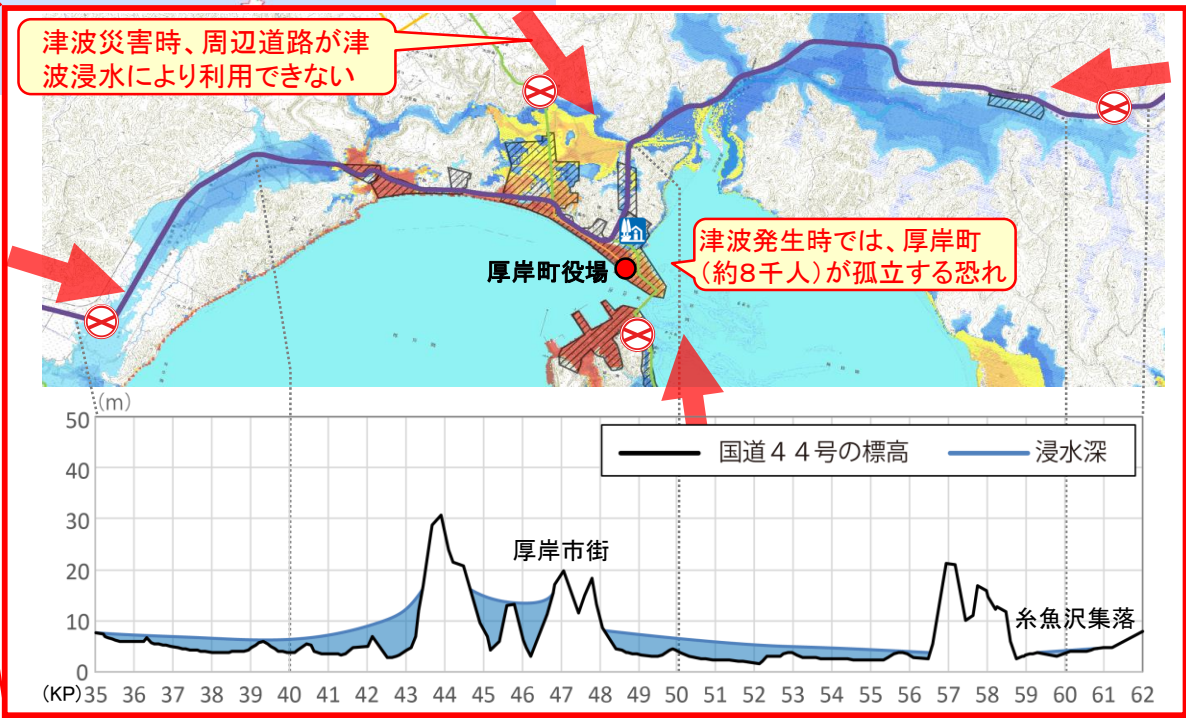
資料: 釧路開発建設部道路パトロール (H25～27)
※冬季は12月～2月、パトロール頻度は概ね2日に1回
冬季路面は圧雪、アイスバーン、シャーベット状態

4-4) 道路の状況と課題(災害)

○予測される津波浸水では、通行止めにより厚岸町への災害救援物資輸送経路が寸断され、根室市方面への救援物資の輸送や災害復旧に多大な影響が発生。
○釧路～根室間の経路は多重性が低く、迂回路となる唯一の第1次緊急輸送道路も浸水が懸念。



【東日本大震災時の津波浸水(厚岸町)】

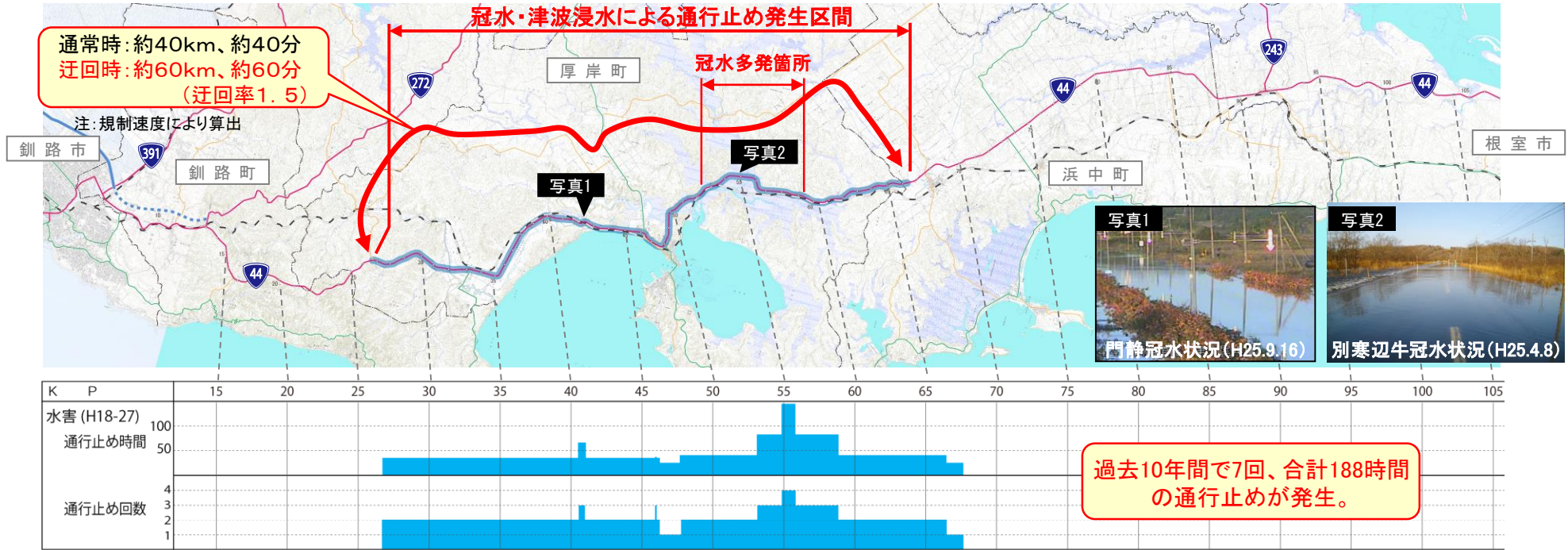


資料:平成27年国勢調査(総務省)の町丁・字等別人口及び世帯数を基に孤立人口を算出
資料:北海道防災会議地震専門委員会資料の津波浸水予測範囲および国土地理院の地形図をもとに釧路開発建設部が作成

4-5) 道路の状況と課題(水害)

- 厚岸町は国道沿線に湿原・湿地帯が分布しており、大雨時や融雪期は冠水による通行止めが多発。
- 平成25年9月には大雨により町内のほぼ全域で断水が発生し、陸上自衛隊や釧路市、根室市等の周辺自治体が給水支援を実施。
- 基幹産業への影響を軽減させるためにも、効率的な迂回路の確保が必要。

▼水害発生状況



▼国道44号の水害による通行規制状況

年月日	規制時間	自KP	至KP	延長	要因
H23.3.11	24.5h	26.7	67.6	40.9km	津波浸水の恐れ
H24.4.5	62.5h	54.8	55.8	9.8km	冠水
H25.4.8	10.0h	26.7	46.2	19.5km	冠水
H25.4.8	42.5h	53.1	58.8	5.7km	冠水
H25.9.16	31.5h	40.5	41.0	0.5km	冠水
H25.9.16	2.0h	45.9	46.0	0.1km	冠水
H25.9.16	15.5h	47.7	66.4	18.7km	冠水

資料: 釧路開発建設部

資料: 上図は国土地理院の地形図をもとに釧路開発建設部が作成

▼農業関連事業者の声

- ・国道44号は、冠水や吹雪による通行止めが発生しやすい道路であり、冠水になると道道厚岸標茶線のの上り口周辺にあるゲートから先は、通行止めになることが多い。
- ・冠水や吹雪による通行止め発生時に迂回路があれば生乳を廃棄する危険性を回避することができる。

5. 課題の整理

5-1) 地域課題と道路の課題(案)

地域の課題(案)	道路の課題(案)	テーマ
○釧路根室地域は、日本の食糧供給基地である北海道において、<u>トップクラスの食糧生産地であるが、物流拠点間の距離が長く、長距離輸送が必要</u> ○貨物自動車が増少傾向にあるなか、<u>地域を支える農水産業の輸送効率化が課題</u>	○農水産品の出荷ルートである当該区間は、冬季の輸送時間がかかるうえ、<u>貨物車の重大事故発生割合、線形隘路区間の割合、更に線形隘路区間での事故発生割合が高い</u> ○ドライバーの負担を軽減し、<u>安全かつ輸送効率が高い道路が必要</u>	農水産業支援 (物流)
○釧路根室地域は高齢者の救急搬送件数が増加傾向 ○釧路根室地域は、高次医療や分娩を釧路市に依存しており、<u>第3次救急医療機関の1施設あたりのカバー面積が全国1位</u> ○安心して暮らせる地域を形成するには<u>釧路市への速達性が課題</u>	○釧路市の高次医療施設への救急搬送ルート上に、速度低下の大きい市街地や線形不良区間が存在することに加え、冬季は路面凍結や地吹雪等により走行環境が悪化 ○搬送時間を短縮し、救命率を上げるために、<u>速達性が高く、安定走行が可能な道路が必要</u>	暮らし (医療)
○釧路根室地域は大規模な地震の発生確率が北海道内で最も高い ○厚岸町市街を中心に津波浸水予測範囲が広がり、<u>救援物資の輸送や災害復旧に大きく影響</u>	○厚岸町周辺の国道や道道は津波による浸水が予測され、<u>根室市方面への災害救援物資輸送経路が寸断</u> ○釧路～根室間の経路は多重性が低く、迂回路となる唯一の第1次緊急輸送道路も浸水が懸念 ○厚岸町内の国道沿線には湿地帯が分布しており、大雨や融雪の影響による冠水で通行止めが多発	災害 (防災)

⇒今後のアンケート・ヒアリング、自治体との調整等により、明確化を行う。

5-2) 地域の課題(案)

地域・道路の状況から導かれる地域の課題(案)		
農業・水産業支援（物流）	暮らし（医療）	災害（防災）
○釧路根室地域は、日本でもトップクラスの食糧供給基地であるが、物流拠点間の距離が長く長距離輸送が必要 ○貨物自動車が増少傾向にあるなか、地域を支える農水産業の輸送効率化が課題	○釧路根室地域は、<u>高次医療や分娩を釧路市に依存するが、カバー面積が全国1位</u> ○釧路市を中心とした医療圏域を形成するには<u>釧路市への速達性が課題</u> ○安心して暮らせる地域を形成するには<u>釧路市への速達性が課題</u>	○釧路根室地域は大規模な地震の発生確率が北海道で最も高い ○厚岸町市街を中心に津波浸水予測範囲が広がり、<u>救援物資の輸送や災害復旧に大きく影響</u>



5-3) 地域の将来像

地域の将来像

産業・経済

- 水産基盤整備による地域の魅力向上
〔厚岸町未来創生総合戦略（2015～2019）〕
- 農業の持続的発展と経営基盤の強化
〔厚岸町未来創生総合戦略（2015～2019）〕
- 生産基盤の整備
〔第5期浜中町新しいまちづくり総合計画（2010-2019）〕
- 魅力あふれる地場産業の振興と安定した雇用の創出
〔浜中町創生総合戦略（2015～2019）〕
- 生産・流通拠点としての役割促進
〔第9期根室市総合計画（2015～2024）〕

医療

- 救急医療体制の充実
〔第5期厚岸町総合計画（2010～2019）〕
- 生き生きと安心して暮らせるまちづくりの推進
〔厚岸町未来創生総合戦略（2015～2019）〕
- 消防・救急体制の整備
〔第5期浜中町新しいまちづくり総合計画（2010-2019）〕
- 誰もが安心して住み続けられる生活環境等の整備
〔浜中町創生総合戦略（2015～2019）〕
- 市内医療機関相互の連携や広域的な医療ネットワークの推進
〔第9期根室市総合計画（2015～2024）〕

安全・防災

- 総合防災対策の強化〔第5期厚岸町総合計画（2010～2019）〕
- 災害に強いまちづくりの推進〔厚岸町未来創生総合戦略（2015～2019）〕
- 防災対策の整備〔第5期浜中町新しいまちづくり総合計画（2010-2019）〕
- 一人ひとりの命を守る災害に強いまちづくり〔浜中町創生総合戦略（2015～2019）〕
- 防災体制の充実と関係機関との連携〔第9期根室市総合計画（2015～2024）〕

資料: 第5期厚岸町総合計画
厚岸町未来創生総合戦略
第5期浜中町新しいまちづくり総合計画
浜中町創生総合戦略
第9期根室市総合計画

5-4) 地域の将来像(新たな北海道総合開発計画の構成)

第1章 計画策定の意義

第1節 北海道開発の経緯

- 国全体の安定と発展に寄与するため、特別な開発政策の下、北海道開発を推進。
- 食料品等の輸出倍増、外国人観光客数100万人突破等の成長産業の萌芽。他方、経済・人口は縮小傾向。ネットワーク未整備区間、地域コミュニティ維持に係る懸念の存在。

第2節 我が国を取り巻く時代の潮流

- (1) 本格的な人口減少時代の到来
- (2) グローバル化の更なる進展と国際環境の変化
- (3) 大規模災害等の切迫

第3節 新たな北海道総合開発計画の意義

- 北海道開発の基本的意義：北海道の資源・特性を活かして、国の課題の解決に貢献。
- 人口減少・高齢化の急速な進展等により、食や自然環境など北海道の強みを提供し、我が国全体に貢献している「生産空間」の維持が困難となるおそれ。
- 来たるべき10年間は、
 - ・「生産空間のサバイバル」「地域としての生き残り」を賭けた重要な期間。
 - ・また、北海道新幹線開業、高速道路網の道東延伸、2020年オリパラ等を地域の飛躍の契機となし得る期間。
- これらの機会の活用によって、本格的な人口減少時代にあっても活力を失うことなく人々が豊かな暮らしを送ることのできる地域社会の先駆的形成を図る。

第2章 計画の目標

キャッチフレーズ：「世界の北海道」
ビジョン：2050年を見据え、「世界水準の価値創造空間」の形成

《3つの目標》

- (1) 人が輝く地域社会
- (2) 世界に目を向けた産業
- (3) 強靱で持続可能な国土

第3章 計画推進の基本方針

第1節 計画の期間 2016（平成28）～2025（平成37）年度の10年間

- 第2節 施策の基本的な考え方
 - (1) 北海道型地域構造の保持・形成
 - 「生産空間」「市街地」「中心都市」の3層構造で人々の日常生活が営まれる「基礎圏域」を形成。
 - 札幌都市圏：集積を活かして北海道全体を牽引。
 - (2) 北海道の価値創造力の強化
 - 人口減少時代にあっては、「人」こそが資源。
 - 人材育成・活用の重点的実施とともに、多様な人々を引きつけ、地域の価値創造力を向上。

第3節 計画の推進方策

- (1) 産学官民金連携による重層的なプラットフォームの形成
 - 人材育成、地域づくり等のテーマに応じて、産学官民金が連携するプラットフォームを各地域又は北海道全体で展開し、取組を持続的にマネジメント。
- (2) イノベーションの先導的・積極的導入～「北海道イニシアティブ」の推進
 - 技術の力で人口減をカバーし、地域の課題を旧弊にとらわれずイノベティブに解決。
- (3) 戦略的な社会資本整備
 - 社会資本のストック効果を最大限に発揮。
 - 戦略的なインフラメンテナンスの徹底、技術開発も活用した「賢く使う」取組の充実強化。
- (4) 計画のマネジメント
 - 「企画立案→実施→評価→改善」のマネジメントサイクル。おおむね5年後に総合的な点検。

第4章 計画の主要施策

第1節 人が輝く地域社会の形成

- (1) 北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進
- (2) 北海道の価値創造力の強化に向けた多様な人材の確保・対流の促進

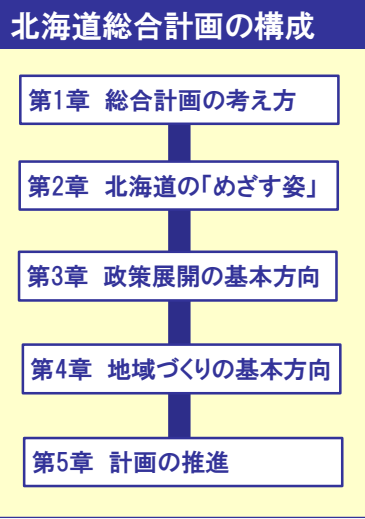
第2節 世界に目を向けた産業の振興

- (1) 農林水産業・食関連産業の振興
- (2) 世界水準の観光地の形成
- (3) 地域の強みを活かした産業の育成
 - ・高規格幹線道路を始めとする基幹的なネットワークについては、農水産品・食料品の輸送や観光等に求められる広域的な人流・物流を支える交通体系を強化する観点から、生産地や観光地、消費地、空港・港湾等の交通拠点を結ぶ道路ネットワークの整備、ミッシングリンク解消等を推進する。

第3節 強靱で持続可能な国土の形成

- (1) 恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成
 - ① 環境と経済・社会の持続可能性の確保
 - ② 環境負荷の少ないエネルギー需給構造の実現
- (2) 強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成
 - ① 激甚化・多様化する災害への対応
 - ② 我が国全体の国土強靱化への貢献
 - ③ 安全・安心な社会基盤の利活用

5-5) 地域の将来像(北海道総合計画(2016年度～2025年度)の構成)



めざす姿を実現する7つの将来像

- 1 地域全体で支える「子育て環境・最適地」
- 2 北国で心豊かに暮らせる 安全・安心社会
- 3 豊かな自然と共生する「環境推進モデル・北海道」
- 4 世界に広がる“あこがれのくに”北海道ブランド
- 5 北海道の産財力をいかす 地域経済の循環
- 6 北の大地を力強く切り拓く 豊富な人材
- 7 北海道ならではの 個性あふれる地域

地域づくりの基本方向

道北連携地域

- ・稲作、畑作、酪農、漁業、林業の活性化と農林水産資源を活用した産業振興
- ・多様な観光資源を活かした魅力あふれる観光振興
- ・風力、木質バイオマスといった新エネルギーの活用や離島振興など、自然と調和した地域づくり
- ・ロシア連邦サハリン州との経済交流の推進

道央広域連携地域

- ・本道経済をリードする産業の活性化と雇用の場の創出、産業人材の確保・定着
- ・稲作、畑作、畜産、漁業など地域の特色を活かした農林水産業の展開
- ・豊かな自然環境と調和した低炭素・循環型社会の形成
- ・温泉地やアイヌ文化、ジオパーク、産業遺産などを活かした観光振興や文化・歴史の継承・活用
- ・地域医療の充実や少子化対策に向けた取組の推進

道南連携地域

- ・北海道新幹線を活用した地域づくり
- ・道南特有の歴史・文化遺産といった魅力と多彩な食の提供などによる観光振興やスポーツなどによる交流人口の拡大・定着
- ・特色・特性を活かした農業、漁業、林業の振興と担い手の育成
- ・試験研究機関等と連携した産業振興による地域経済の活性化と雇用の創出

オホーツク連携地域

- ・豊富な農林水産資源を活かした地域産業の展開
- ・知床世界自然遺産や流水などを活かした観光の展開
- ・モロロ貝塚など特有の歴史・文化の継承
- ・スポーツ合宿誘致などを通じた交流人口の拡大

釧路・根室連携地域

- ・全国一の生産力を有する酪農や水産資源に恵まれた漁業など農林水産業と食品加工など関連産業の振興
- ・知床、釧路湿原、阿寒の3つの国立公園など雄大で魅力ある自然や文化、食などを活かした観光地づくりの推進などによる交流人口の拡大
- ・北方領土の早期返還に向けた取組の推進

十勝連携地域

- ・国内有数の農業を中心とした力強い農林水産業の展開
- ・「食」や雄大な自然・景観など地域資源を活かした観光振興の推進
- ・再生可能エネルギーの利活用、農業や航空宇宙などの先端技術に関する取組の推進

政策展開の基本方向

1 生活・安心

- (1) 安心して子育てができる環境づくりの推進
- (2) 安心で質の高い医療・福祉サービス
- (3) 豊かで優れた自然・生物多様性の保全とその継承
- (4) 環境への負荷が少ない持続可能な社会の構築
- (5) 道民生活の安全の確保と安心の向上
- (6) 安全・安心な生活の基礎となる防災体制の確立
- (7) 強靱な北海道づくりとバックアップ機能の発揮

2 経済・産業

- (1) 農林水産業の持続的な成長
- (2) 本道の優位性を活かした力強い地域産業の創造
- (3) 中小・小規模企業の振興や地域産業の活力再生
- (4) 新たな成長産業への挑戦や研究開発の推進
- (5) 海外の成長力を取り込んだ経済の持続的発展
- (6) 世界が憧れる観光立国北海道の更なる推進
- (7) 良質で安定した雇用の場づくりと産業人材の育成・確保

3 人・地域

- (1) 協働によるまちづくりや地域コミュニティの再構築
- (2) 北海道の未来を拓く人材の育成
- (3) 高齢者や障害のある方々、女性が活躍できる社会づくり
- (4) ふるさとの歴史・文化の発信と継承
- (5) 世界に飛躍するスポーツ王国北海道の実現
- (6) 連携・協働・交流による未来に向けた地域づくり
- (7) 持続可能な社会・経済を支える社会資本の整備

5-6) 地域の将来像(釧路市、釧路町のまちづくり)

○釧路市では、農水産・観光産業等の振興のほか、空港・港湾の機能強化等の方針が示されており、釧路町では、医療基盤の整備、漁業・観光の振興等の方針が示されており、北海道横断自動車道(別保～温根沼間)の整備促進に取り組む方針が示されている。

釧路市のまちづくり基本目標

- (1) 活力に満ちた産業を育て、未来を切り拓くまちづくり
- (2) 共に支え合い、安心して暮らせるまちづくり
- (3) 自然と都市とが調和した、住みよい魅力あるまちづくり
- (4) 心豊かな人を育み、文化を創造するまちづくり
- (5) 市民と協働で創る、自立したまちづくり

釧路町のまちづくり基本目標

- (1) ともに支えあい笑顔で健康なまち
- (2) 豊かさで活力みなぎる産業のまち
- (3) 心豊かで人と文化を育むまち
- (4) 自然と調和した快適で安全なまち
- (5) みんなでつくる自立と協働のまち

施策の概要

- 農業の振興
 - ・農業基盤の整備
- 水産業の振興
 - ・漁業基盤の強化
- 観光・交流の振興
 - ・釧路のブランド力や広域エリアの魅力を生かした旅行市場の活性化
- 保健・医療の充実
 - ・地域医療体制の充実
 - ・地域中核病院としての医療連携の充実
- 道路交通ネットワークの強化
 - ・高規格幹線道路の整備促進
- 港湾・空港の整備
 - ・釧路港の物流機能の拡充
 - ・地震に強い港づくり
 - ・港湾の利用促進
 - ・空港機能の強化
 - ・空港の国際化促進

施策の概要

- 医療基盤・体制の整備
 - ・地域医療体制の維持
- 漁業の振興
 - ・生産基盤の整備
 - ・昆布森産ブランドの確立
- 観光の振興
 - ・広域観光の推進
- 道路交通網の整備
 - ・北海道横断自動車道等の整備促進を関係機関に積極的に要請
 - ・生活路線バスの利便性の向上
- 防犯・交通安全対策の強化
 - ・交通安全施設の設置及び適正な管理

5-7) 地域の将来像(厚岸町、浜中町のまちづくり)

○厚岸町では、水産業の振興・競争力強化、観光面での広域連携などの方針が示されており、浜中町では農水産業の促進、医療体制の整備などの方針が示されている。
○また、両町ともに北海道横断自動車道(別保～温根沼間)の整備促進に取り組む方針が示されている。

厚岸町のまちづくり基本目標

- (1) 自然との調和を大切にした快適で安全なまちづくり
- (2) にぎわいに満ちた活力と魅力あるまちづくり
- (3) やさしさあふれ健やかに安心して暮らせるまちづくり
- (4) 個性と感性がきらめくまちづくり
- (5) みんなでつくる協働のまちづくり

施策の概要

- 道路
 - ・北海道横断自動車道(別保～温根沼間)の効率的な手法による早期整備要請
 - ・国道44号の幅員拡幅や冬期路面対策、冠水対策等、交通安全対策の整備要望
- 水産業
 - ・水産物の安定供給と将来にわたる漁業生産の維持・安定的な増養殖事業の推進
 - ・水産基盤整備による地域の魅力向上・新たな産業の創出
 - ・地域特性を活かしたブランドづくりによる地域水産物の競争力強化
- 農業
 - ・計画的な生産基盤整備
 - ・農業の持続的発展と経営基盤の強化
- 医療
 - ・救急医療体制の充実
 - ・生き生きと安心して暮らせるまちづくりの推進
- 消防・防災
 - ・総合防災対策の強化
 - ・災害に強いまちづくりの推進
- 観光
 - ・観光推進体制の強化と広域連携・地域資源の魅力向上と広域連携による観光推進

資料:第5期厚岸町総合計画(2010-2019)、厚岸町未来創生総合戦略

浜中町のまちづくり基本目標

- (1) 大地に根ざし海を拓く活力豊かなまちづくり
- (2) 自然と共生し景観と調和した快適なまちづくり
- (3) 健やかで安心して暮らせる福祉のまちづくり
- (4) 生涯にわたり輝き、未来を創造する人づくり
- (5) 地域とともに歩む創意に満ちたまちづくり

施策の概要

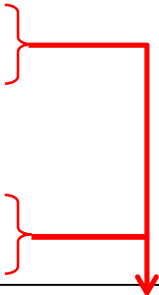
- 農業の振興
 - ・生産基盤の整備
 - ・魅力あふれる地場産業の振興と安定した雇用の創出
- 漁業の振興
 - ・漁場の整備・資源の管理
 - ・増養殖事業の促進
 - ・水産関連施設の整備
- 観光業の振興
 - ・産業を活かした体験型観光の推進
 - ・広域連携による観光商品の創出
 - ・地域資源を活用した知名度向上と交流人口の拡大
- 道路網の整備
 - ・北海道横断自動車道の整備の促進
 - ・快適で安全な道路環境づくりの促進
- 消防・救急・防災体制
 - ・消防・救急体制の整備
 - ・一人ひとりの命を守る災害に強いまちづくり
 - ・防災対策の整備
- 医療体制の整備
 - ・広域医療体制の確立
 - ・救急医療体制の充実
 - ・誰もが安心して住み続けられる生活環境等の整備

資料:第5期浜中町新しいまちづくり総合計画(2010-2019)、浜中町創生総合戦略(2015-2019)

5-8) 地域の将来像(根室市のまちづくり)

○根室市では医療の充実、防災対策、流通拠点としての港湾の機能強化等の方針が示されており、高速自動車道及び地域高規格道路の整備促進に取り組む方針が示されている。

根室市のまちづくり基本目標

- (1) 互いに支え合い健やかに暮らせるまち
 - (2) 安全・安心に暮らせる都市基盤の充実したまち
 - (3) 個性を伸ばし豊かな心と感性を育むまち
 - (4) 自然と共生し優れた環境を未来へつなぐまち
 - (5) 地域資源を活かし活力と躍動感に満ちたまち
 - (6) 北方領土の復帰を目指すまち
- 

施策の概要

- 地域医療の充実
 - ・市内医療機関相互の連携や広域的な医療ネットワークの推進
- 防災・減災対策の強化
 - ・防災体制の充実と関係機関との連携
- 道路・河川の整備と管理
 - ・**高速自動車道**及び地域高規格道路の**整備を促進**
- 港湾の機能強化
 - ・港湾機能の高度化と人流・物流拠点の形成 ・生産・流通拠点としての役割促進
- 安全・安心な水産物の供給
 - ・地域ブランド化の推進 ・多様な販売戦略の展開支援
- 自然・歴史・食観光の振興
 - ・地域資源を活用した観光メニューの開発促進 ・広域連携による観光振興
- 北方領土の復帰に向けた社会基盤の整備
 - ・社会基盤整備の推進

6. 意見聴取方法

6-1) 意見聴取方法

■意見聴取の基本方針

○「地域の改善すべき課題」、「北海道横断自動車道根室線の調査中区間及び並行する国道44号の課題」に対し意見を伺う。

■アンケート配布範囲



■意見聴取の方法と対象者

対象者・実施方法			
ヒアリング	【沿線自治体及び各団体】		
	沿線自治体等	釧路総合振興局、根室振興局、釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、根室市	インタビュー形式での ヒアリング
	各団体	商工会議所(2箇所)、商工会(2箇所) 農業協同組合(2箇所)、漁業協同組合(2箇所) 釧根地区トラック協会 消防本部・消防組合(3箇所)、病院(3箇所) 根室市長会連合会婦人部連絡会	
アンケート	【地域住民及び道路利用者】		
	地域住民	厚岸町(全世帯:約4,100戸)、浜中町(全世帯:約2,300戸)、 根室市(全世帯:約11,400戸)	郵送配布 (約17,800戸)
	道路利用者	道の駅(厚岸グルメパーク、スワン44ねむろ)	常設の留置きアンケート調査
		広域的な利用者	Webアンケート調査

6-2) 意見聴取方法

■ヒアリングの調査項目と活用方針

ヒアリングの調査項目	ヒアリング結果の活用	備考
自治体や各団体への意見聴取	・地域や道路の課題に関し、自治体や各団体への意見聴取を行い、政策目標の設定に反映する。 ・自治体や各団体との認識の整合性の確認をする。	共通

■アンケートの調査項目と活用方針

アンケートの調査項目	アンケート結果の活用	備考
地域の課題	将来を見据えた改善すべき地域の課題について、回答者の考えを把握する。	第1回
道路の課題	高規格幹線道路の調査区間(尾幌～糸魚沢)及び並行する国道44号の現状について、回答者の考える課題を把握する。	
その他自由意見	その他、道路に関する課題や意見を幅広く聴取する。	
比較ルート帯(複数案)に対する意見	・ルート帯選定に当り、回答者が重要視する視点を把握する。 ・インターチェンジ設置位置(配置計画)において、回答者が重要視する視点を把握する。	今後
その他自由意見	その他、各区間に関する意見を幅広く聴取し、計画策定に反映する。	
回答者の属性、利用状況	回答結果の差異に対して各分野で整理し、分析する。	共通

6-3) 第1回アンケート調査(案)

■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

①調査概要

➡ 本調査の趣旨・調査対象箇所について説明

北海道横断自動車道（根室線）尾幌～糸魚沢間における道路計画に関する第1回アンケート調査

北海道横断自動車道（根室線）は、黒松内町を起点として札幌市、帯広市等を経由し、本別ジャンクションから分岐し、釧路市を経由して、根室市へ至る延長約338 kmの高規格幹線道路です。

現在、本別JCT～阿寒ICまでが開通しており、阿寒IC～釧路西IC間、釧路東IC～釧路別保IC間は国土交通省北海道開発局が整備を進めています。

このアンケートは、このうちの厚岸町尾幌～糸魚沢間の道路計画にあたり、地域の皆さまの生活にも役立つ道路とするため、ご意見を伺うアンケート調査です。

アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。



■このアンケートでは、尾幌～糸魚沢間のことについて伺います。



②釧路・根室地域の概況

➡ 地域の概況と課題について説明

釧路根室地域の概況

釧路根室地域における国道44号は、釧路地域の中心都市であり、空港・港湾をはじめ物流拠点や高次医療施設が集積する釧路市と、重要港湾を有し、根室地域の中心都市である根室市を結ぶ基幹ルートです。
また、沿線には漁業・酪農業の盛んな厚岸町、浜中町があり、農水産物流や暮らし、救急搬送など様々な交通が利用する重要路線となっています。
このような中、現在の地域や道路の状況から、地域の将来を見据えた改善すべき課題（道路に関して）は以下のように考えられます。

地域・道路の状況から導かれる地域の課題(案)		
農業・水産業支援（物流）	暮らし（医療）	災害（防災）
○釧路根室地域は、日本でもトップクラスの食糧供給基地であるが、物流拠点間の距離が長く長距離輸送が必要 ○貨物自動車が増加傾向にあるなか、地域を支える農水産業の輸送効率化が課題	○釧路根室地域は、高次医療や分娩を釧路市に依存するが、カバ―面積が全国1位 ○釧路市を中心とした医療圏域を形成するには釧路市への到達性が課題 ○安心して暮らせる地域を形成するには釧路市への到達性が課題	○釧路根室地域は大規模な地震の発生確率が北海道で最も高い ○厚岸町市街を中心に津波浸水予測範囲が広がり、救援物資の輸送や災害復旧に大きく影響



6-4) 第1回アンケート調査(案)

■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

③将来を見据えた改善すべき課題

➡ 将来を見据えた改善すべき地域の課題の提示

将来を見据えた改善すべき課題

■地域の課題は、以下のように考えられます。

安全性・定時性の高い物流経路

■地域別漁獲量と漁業産出額全国シェア

資料：平成27年北海道水産現勢(北海道)、平成27年漁業産出額(農林水産省)

救急医療施設への速達性・安定性

■釧路根室地域における釧路市への救急搬送割合

■救命救急センター1施設あたりのカバー面積(上位10位)

資料：平成27年全国都道府県市区町村別面積調、全国救命救急センター設置状況H28.8現在(日本救急医学会)

大規模災害時の交通確保

■今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布

■釧路～根室間の津波浸水予測範囲

■大規模地震の発生時には津波浸水による孤立が想定され、避難・救援の交通確保が課題

➡ 対象路線の道路課題の提示

尾幌～糸魚沢間の道路課題

■国道44号 尾幌～糸魚沢間の道路課題は、以下のように考えられます。

生活・物流交通の状況

■貨物車の関連する事故状況(尾幌地区)

■農水産業の盛んな地域のため、物流交通が多く、貨物車の関連する重大事故が多発しています

速達性・走行性の状況

■速達性低下の状況(厚岸地区)

■市街地箇所では信号が連続し、郊外部では勾配の大きい区間が存在するため、救急搬送の速達性・走行性が低下しています

災害時の状況

■東日本大震災時の状況(厚岸地区)

■尾幌～糸魚沢間には、津波浸水想定域があり、大規模災害時には孤立や避難・救援ルートが寸断される恐れがあります

凡例

■「事故危険区間」は、警察官や一般市民の目撃情報、地域住民からの意見に基づき全交通量の多い区間

6-5) 第1回アンケート調査(案)

■質問内容・解答欄

問1 釧路根室地域の将来を見据えた地域の課題についてどう思いますか？

次のA～Eについて、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価してください。

項 目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
A 農水産物の輸送に時間がかかるため、地域産業発展のためにも効率の良い輸送が必要である	1	2	3	4	5
B 釧路市の第3次救急医療機関への救急搬送に時間がかかるなど、地域の安全・安心に課題がある	1	2	3	4	5
C 津波災害時の浸水や大雨などによる冠水時に道路が通行止めとなり、緊急輸送の妨げになる	1	2	3	4	5
D 中心都市である釧路市と周辺市町村との移動距離が長く、日常生活に影響が出ている	1	2	3	4	5
E 移動に時間がかかるため、広域エリアでの観光周遊の妨げになっている	1	2	3	4	5

上記A～E以外で、あなたが課題だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。

問2 国道44号尾幌～糸魚沢間に必要な道路はどのような道路だと思いますか？

次のA～Eについて、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価してください。

項 目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
A 事故が少なく安心して走れる道路	1	2	3	4	5
B 物流輸送ドライバーの負担を軽減し、輸送効率が高い道路	1	2	3	4	5
C 冬季に速度低下の大きい市街地においても定時性が確保される道路	1	2	3	4	5
D 医療拠点である釧路市への速達性を向上させ、安定走行が可能な道路	1	2	3	4	5
E 津波災害時の浸水に対しても、救援物資輸送などの地域支援に利用できる道路	1	2	3	4	5

上記A～E以外で、あなたが必要だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。

問3 その他、国道44号 尾幌～糸魚沢間について、ご意見やご要望がありましたらご自由にお書きください。

[illegible]

郵便はがき

料金受取人払

●●郵便局
承認
000

差出有効期間
平成●年●月
●日まで
(切手不要)

北海道 釧路市 幸町10丁目3番地
釧路開発建設部 道路計画課

北海道横断自動車道（根室線）尾幌～糸魚沢間
道路計画に関する意見聴取係 行

見 本

■あなた自身のことについて（記入または該当する番号に○）

住所 〒000-0000 北海道 厚岸市郡 厚岸町村

性別 ①男性 ②女性 年齢: 50 歳代

職業 ①会社員 ②公務員 ③農業 ④漁業 ⑤林業 ⑥観光業

⑦学生 ⑧主婦 ⑨物流・輸送 ⑩商業 ⑪工業

⑫無職 ⑬その他 ()

■自動車を運転する頻度を教えてください（該当する1つに○）

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど運転しない ⑤運転しない

■ 国道44号尾幌～糸魚沢間の利用頻度を教えてください(該当する1つに○)

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④あまり利用しない ⑤利用したことがない

■尾幌～糸魚沢間の利用目的を教えてください（該当する全てに○）

①通勤・通学 ②通院 ③家事・買物 ④仕事(営業・運送等)
⑤観光・レジャー ⑥その他 ()

北海道横断自動車道(尾幌～糸魚沢間)第1回アンケート 回答欄

問1. 釧路根室地域の将来を見据えた地域の課題について

以下のA～Eの項目について、該当するもの1つに○をつけてください

	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
A物流の輸送効率化	①	2	3	4	5
B医療施設への速達性	1	②	3	4	5
C災害時の通行止め	1	2	3	④	5
D移動距離の長さ	1	②	3	4	5
E移動時間が観光を阻害	1	2	③	4	5

上記A～E以外で課題だと思うことがあれば、ご自由にお書きください

[illegible]

問2. 尾幌～糸魚沢間に必要な道路機能について

以下のA～Eの項目について、該当するもの1つに○をつけてください

	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
A安全・安心な道路	①		3	4	5
B輸送効率が高い道路	1	②	3	4	5
C定時性が確保される道路	1	2	③	4	5
D速達性の高い道路	1	②	3	4	5
E災害時に利用できる道路	1	2	3	④	5

上記A～E以外で必要だと思うことがあれば、ご自由にお書きください

.....

問3. その他のご意見

尾幌～糸魚沢間についてご意見・ご要望がありましたらご自由にお書き下さい

計画段階評価の流れ

北海道地方小委員会

現在はこの段階です

結果の分析

地域の皆さまからの意見も踏まえ、概略ルート・構造等を引き続き検討します。

意見聴取

＜調査主体＞

北海道開発局 釧路開発建設部 道路計画課

北海道横断自動車道（根室線）尾幌～糸魚沢間 道路計画に関する意見聴取係

〒085-8551 釧路市幸町10丁目3番地
電話0154-24-7268

安全で快適な地域づくりのために
みなさまのご意見をお待ちしております。

本調査は、釧路根室地域の道路計画について地域にお住まいの皆さまや道路利用者のご意見を広くお聞きすることを目的とするものです。そのため、回答用の郵便はがきに記入されたことは、この目的以外には使用いたしません。

回答いただいた個人に関する情報は、本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。（法令により開示を求められた場合を除きます）